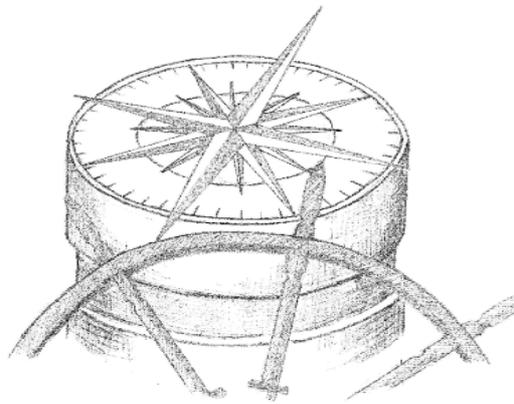


平成27年度
鹿児島学習定着度調査
(平成28年1月実施)

始良・伊佐地区結果分析



平成28年3月
始良・伊佐教育事務所

目 次

I	各教科の結果概要	1
1	各教科の全体平均通過率	1
2	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布	2
(1)	小学校第5学年国語	2
(2)	中学校第1学年国語	3
(3)	中学校第2学年国語	4
(4)	小学校第5学年社会	5
(5)	中学校第1学年社会	6
(6)	中学校第2学年社会	7
(7)	小学校第5学年算数	8
(8)	中学校第1学年数学	9
(9)	中学校第2学年数学	10
(10)	小学校第5学年理科	11
(11)	中学校第1学年理科	12
(12)	中学校第2学年理科	13
(13)	中学校第1学年英語	14
(14)	中学校第2学年英語	15
3	受検者の正答数分布からの考察 ～学力の実態と授業改善の方向性～	16
II	授業改善に向けての参考例 ～始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト研究・実践より～	18
III	児童生徒質問紙集計結果の概要	36

I 各教科の結果概要

1 各教科の全体平均通過率

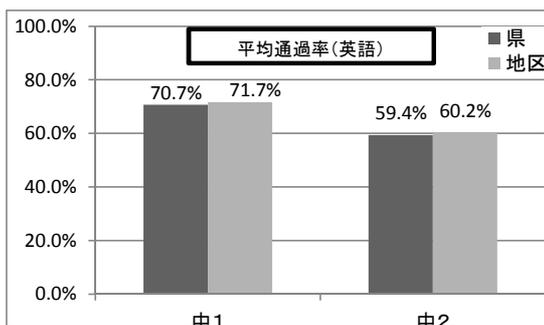
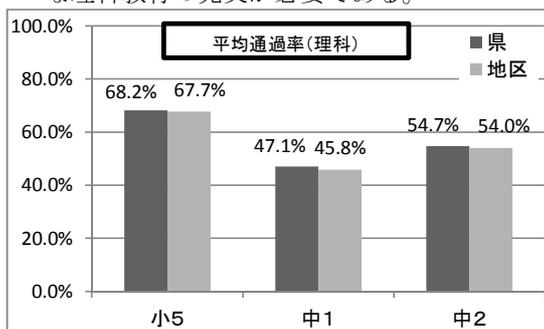
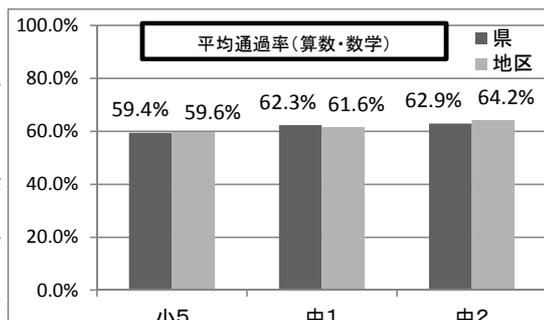
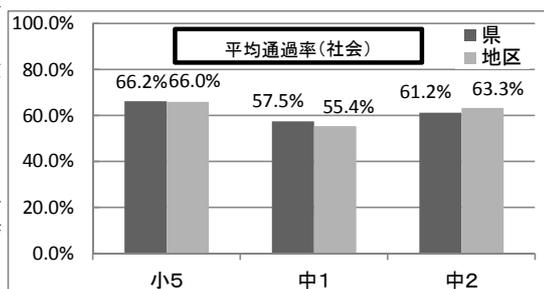
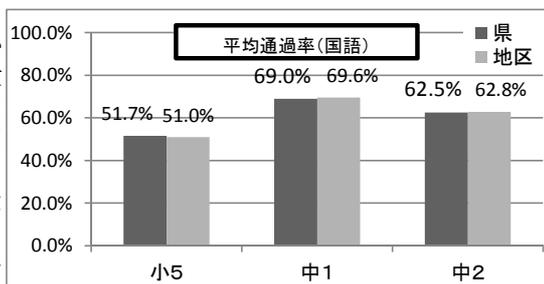
ここでは、本地区における調査実施学年の各教科の全体平均通過率を、県全体の平均通過率との比較で示し、本地区の総合的な学力の定着状況の概要を分析する。

(1) 出題の趣旨及び調査結果の全体的な傾向

- 本調査では、各教科全体の問題数に対して、「基礎・基本」に関する問題が約7割、「思考・表現」に関する問題が約3割出題された。本地区では目標通過率として「基礎・基本」を概ね7割、「思考・表現」を概ね5割程度と設定しているが、教科や学年によって、その定着に大きな差が見られる。各教科、各学年における「基礎・基本」、「思考・表現」ごとの分析に基づく課題の明確化が必要である。
- 「基礎・基本」に関する問題については、問題の難易度による違いはあるが、教科によっては、目標通過率を大きく下回る教科もあり、基礎的・基本的な内容の定着が不十分なものもある。「思考・表現」に関する問題については、単元・領域別の一部において改善が見られたものの、依然として課題の大きい教科・学年もある。

(2) 県平均通過率との比較から

- 小学校においては、これまで課題の大きかった算数で改善が図られた。しかし、他の教科については、県平均を下回っており、特に社会、理科においては「基礎・基本」が、国語においては「基礎・基本」、「思考・表現」とともに県平均を大きく下回るなど、課題が大きくなっている。
- 中学校1年生においては、国語、英語以外の3教科が県平均を下回っている。特に、社会、数学においては「基礎・基本」が、理科においては「基礎・基本」、「思考・表現」とともに県平均を大きく下回るなど、課題が大きい。
- 中学校2年生においては、理科の「基礎・基本」「思考・表現」と国語の「思考・表現」以外は全ての教科・種別において県平均を上回っている。特に社会においては「基礎・基本」、「思考・表現」とともに、英語においては「思考・表現」の通過率が県平均を大きく上回るなど大きな成果を挙げている。一方、理科の「思考・表現」では、県平均を大きく下回り、課題が大きい。
- 県全体の課題である「思考・表現」の定着に関しては、改善が図られている教科とそうでない教科の差が大きくなっている。今後も思考力・表現力の向上を図るための更なる授業改善が必要である。
- 本地区の特徴的な課題としては、理科における平均通過率が、全学年において低いことが挙げられる。小・中連携を生かした系統的な理科教育の充実が必要である。



※ 各学年、各教科における「基礎・基本」、「思考・表現」ごとの平均通過率及び本地区の学力の定着状況等の詳細については、2「各教科の平均通過率と受検者の正答分布」を参照。

2 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布

ここでは、本地区の調査実施学年における各教科の「全体」「基礎・基本」「思考・表現」ごとの平均通過率及び正答数の分布を、県平均との比較で示し、本地区の各教科における学力の定着状況の概要を分析する。

【小5国】

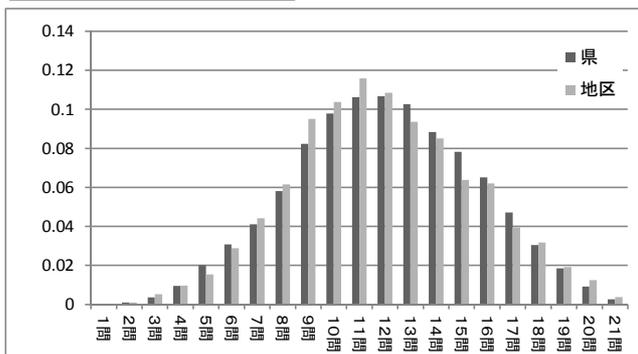
(1) 【国語】

小学校第5学年

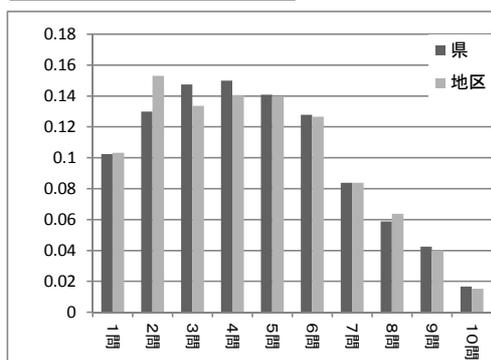
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	57.1	56.5	-0.6
思考・表現	40.3	39.4	-0.9
全体	51.7	51.0	-0.7

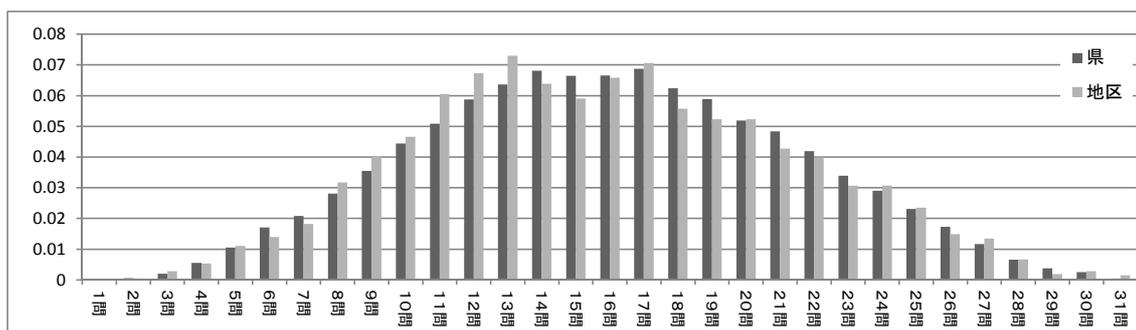
正答数(基礎・基本)の分布



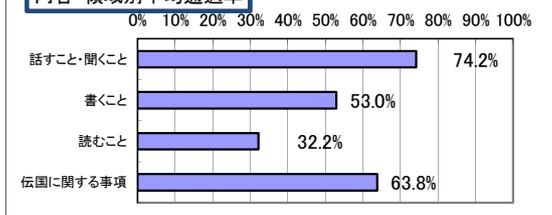
正答数(思考・表現)の分布



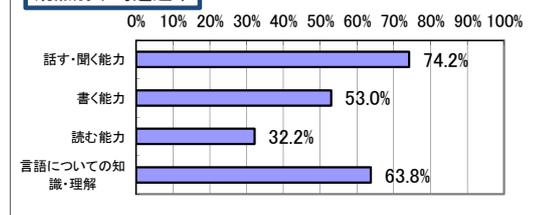
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



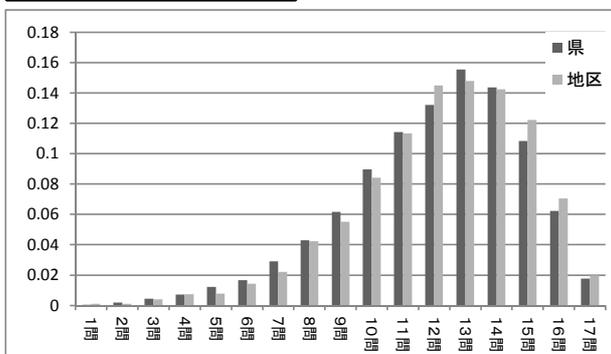
- 「基礎・基本」については、平均通過率 56.5%であり、目標通過率の7割には達していない。県平均からは0.6ポイント低く課題が大きい。特に、「筆者の意図や思考を想定して読むこと」等における課題が大きい。
- 「思考・表現」については、平均通過率 39.4%であり、目標通過率の5割には達していない。県平均との比較からも0.9ポイントと大きく下回り、十分定着が図られているとは言えない。特に、「自分の知識や経験、考え等と関連付けて読むこと」や、「文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえること等」における課題が大きい。
- 正答数の分布については県よりも層のばらつきが大きく、学力差が大きい傾向がうかがえる。「基礎・基本」においては、県よりも上位層の割合が高く、「思考・表現」においては、下位層の割合が高くなっている。下位層の児童へのきめ細かな指導とともに、中位層の児童の学力を更に高めること等、これまで以上に、個に応じた指導、個を生かす指導の充実に努める必要がある。
- 今後の取組としては、筆者の挙げた事実がどのような理由や根拠に基づき、どのような主張に結びついているのかを、構成の仕方や巧みな叙述等に注意しながら的確に読むことが求められる。図表等の資料を根拠に、自分の立場を明確にして書く活動と関連させた取組等が有効である。

中学校第1学年

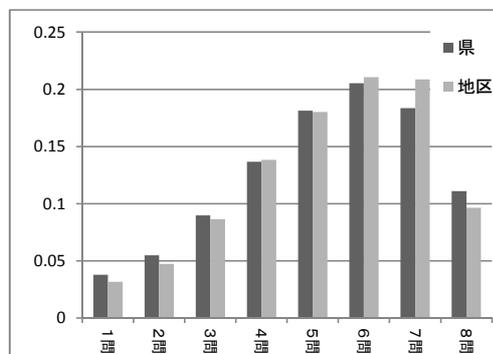
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	71.3	71.7	0.4
思考・表現	64.3	65.1	0.8
全体	69.0	69.6	0.6

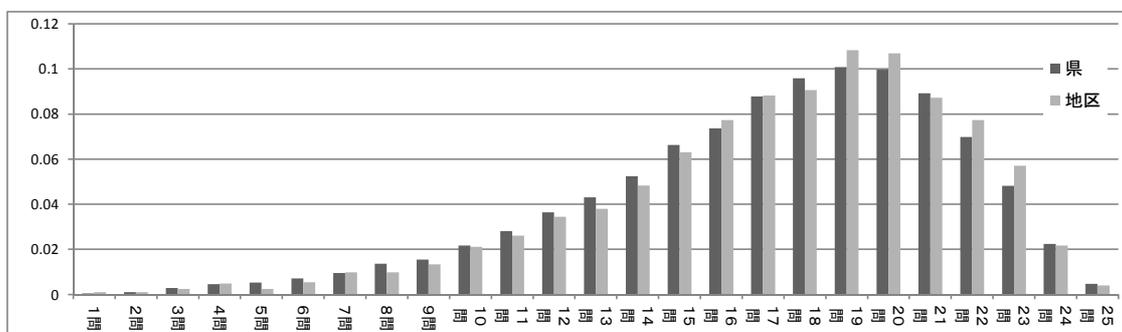
正答数(基礎・基本)の分布



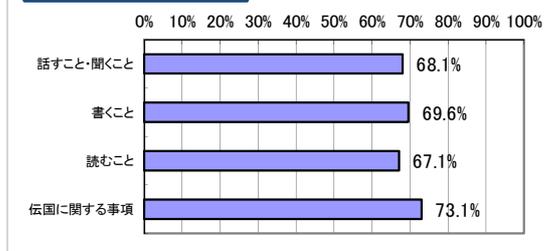
正答数(思考・表現)の分布



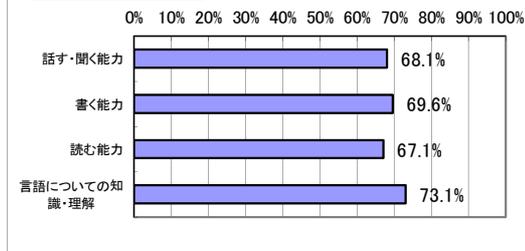
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



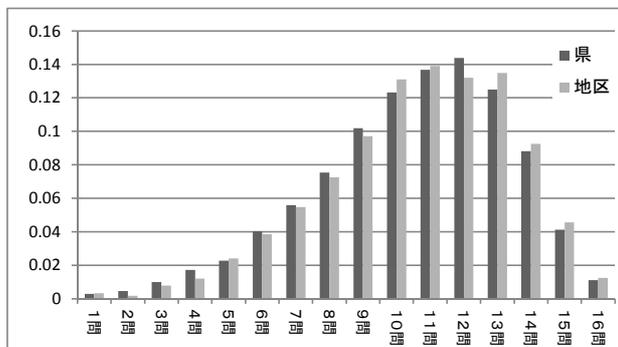
- 「基礎・基本」については、平均通過率は71.7%であり、目標通過率の7割を達成しており、県平均を0.4ポイント上回っている。概ね定着は図られているが、「文章の構成や展開の工夫をとらえること」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率が県平均を0.8ポイント上回る65.1%であり、目標通過率の5割を達成した。概ね定着は図られているが、課題としては、「分かりやすく事実を伝えるために適切な図表を用いること」や、「複数の情報を読み、それをもとに自分の考えを論理的に書くこと」等が挙げられる。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも上位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組として、文学的な文章については、時間的、空間的な場面展開や登場人物の心情・行動、情景描写等に注意して文章の特徴をとらえることが大切であることを再度確認したい。説明的な文章においては、文章と図表等との関連を考えながら読んだり、分かりやすい文章にするために図表を効果的に用いて書いたりする言語活動を取り入れることで、伝えたい内容をよりの確に読み取り、表現する能力を身に付けさせたい。

中学校第2学年

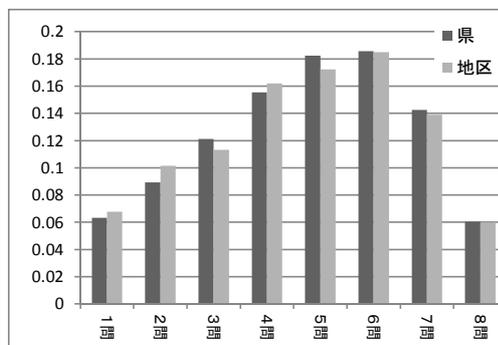
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.5	66.4	0.9
思考・表現	56.4	55.7	-0.7
全体	62.5	62.8	0.3

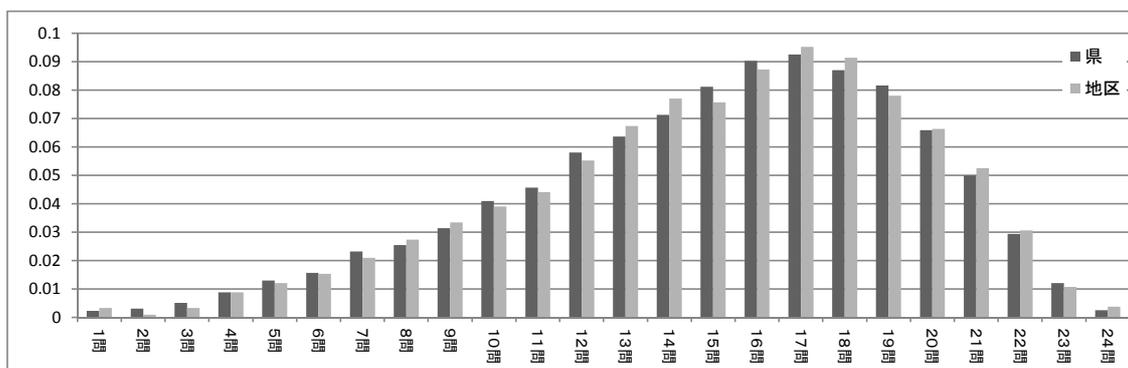
正答数(基礎・基本)の分布



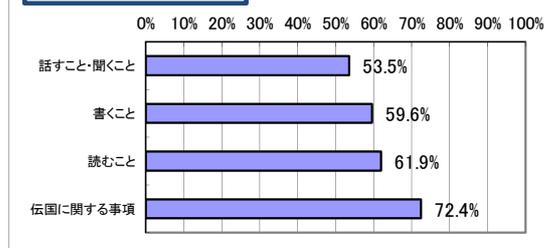
正答数(思考・表現)の分布



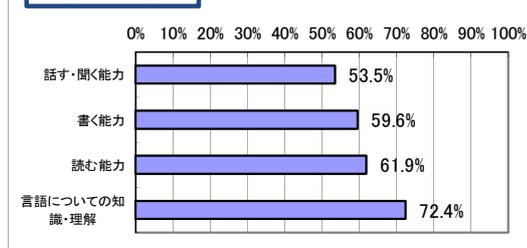
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 66.4%であり、目標通過率の7割には達していないが、県平均を0.9ポイント上回っている。課題としては、特に、「文の前後の関係を正しく捉え、内容の理解に役立てること」や、「事象の対照的な関係を捉えて内容を理解すること」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 55.7%であり、目標通過率の5割を達成したが、県平均を0.7ポイント下回った。特に、「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して考えを広げること」や、「社会生活の中から課題を決め、複数の意見をもとに自分の考えを論理的に記述すること」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、「基礎・基本」において、県よりも上位層の割合が高く、「思考・表現」において下位層の割合が高い。目標水準の引き上げ等により、中位層の生徒の学力を高めることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組として、指示語や接続詞、副詞などの語句指導に当たっては、文書を読む際にそれらの知識が役立つことを実感させるとともに、実生活の中での使用をより意識させたい。また、説明や発表、討論といった言語活動を通して、意見や質問、助言等を交わす経験を多く積み、自分の考えを広げようとする態度を養うことが大切である。

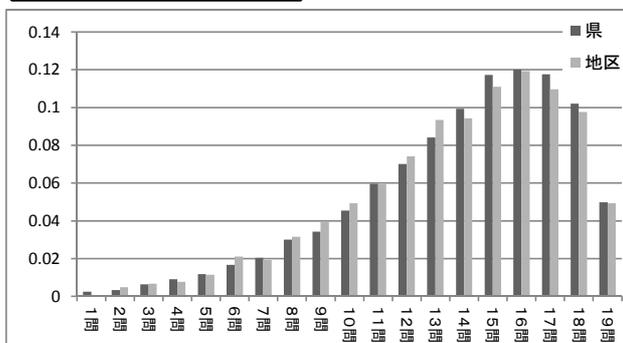
(2) 【社会】

小学校第5学年

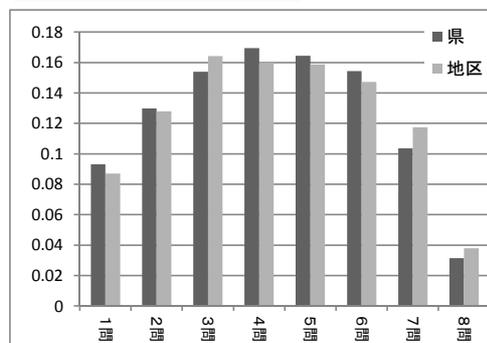
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	72.7	72.1	-0.6
思考・表現	50.8	51.4	0.6
全体	66.2	66.0	-0.2

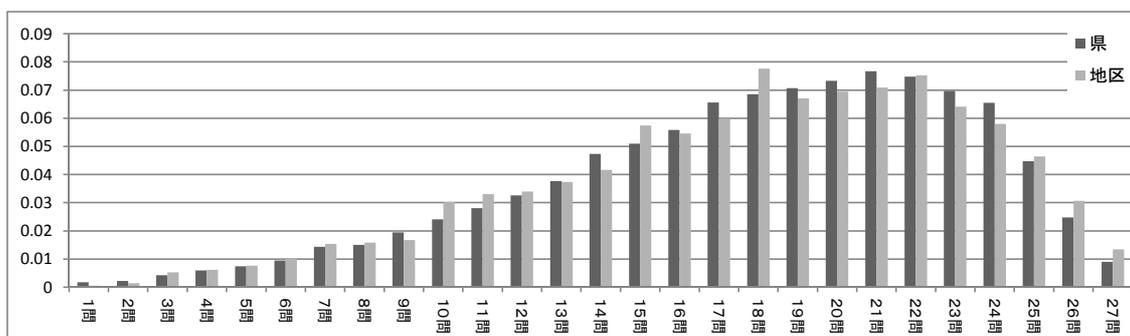
正答数(基礎・基本)の分布



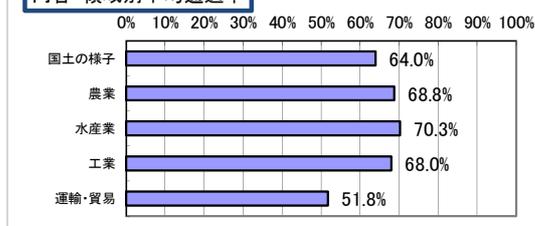
正答数(思考・表現)の分布



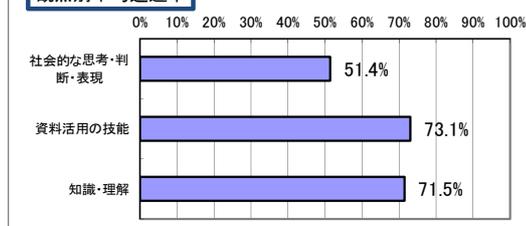
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



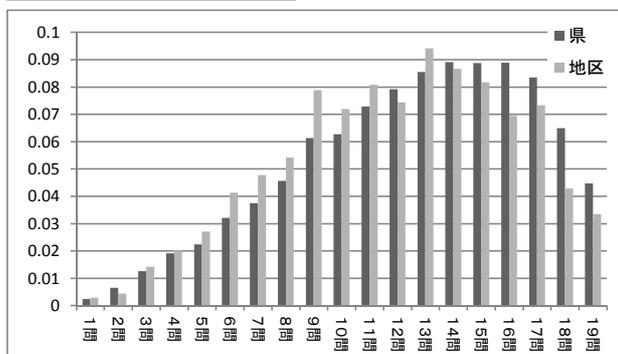
- 「基礎・基本」については、平均通過率 72.1%であり、目標通過率の7割を達成したが、県平均からは0.6ポイント低く課題が大きい。特に、「県の特徴的な気候を生かした産業を説明するための資料を選択する問題」や、「食料自給率についての理解を問う問題」等における課題が大きい。
- 「思考・表現」については、平均通過率 51.4%であり、目標通過率の5割を達成し、県平均を0.6ポイント上回った。課題としては、「工業地域の立地条件について、製品の輸送の面と関連付けて説明すること」や、「海外での現地生産について正しく説明すること」等が挙げられる。
- 正答数の分布については県と概ね同様の傾向はあるが、「基礎・基本」において県よりも若干、上位層の割合が低く、逆に「思考・表現」においては、上位層の割合が高くなっている。全体的に県よりも若干、学力のばらつきが大きく、学力の個人差が大きい傾向がうかがえる。これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導の充実が必要である。
- 今後の取組としては、基礎的・基本的な語句や社会的現象の意味をしっかりと理解させた上で、根拠となる資料を示しながら説明させる場の設定や、話し合い、ポスターセッション、レポートや社会科新聞の作成等、児童相互による多様な思考の交流の場の設定により、多面的に考察させるような授業展開の工夫が必要である。

中学校第1学年

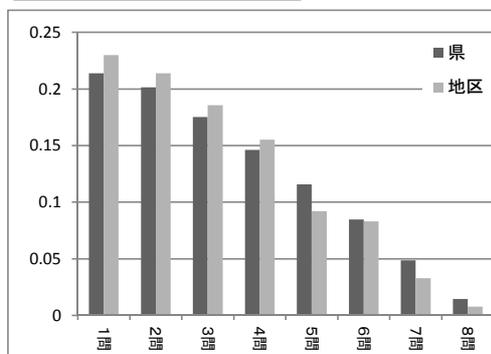
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	66.5	63.4	-3.1
思考・表現	35.9	34.9	-1.0
全体	57.5	55.4	-2.1

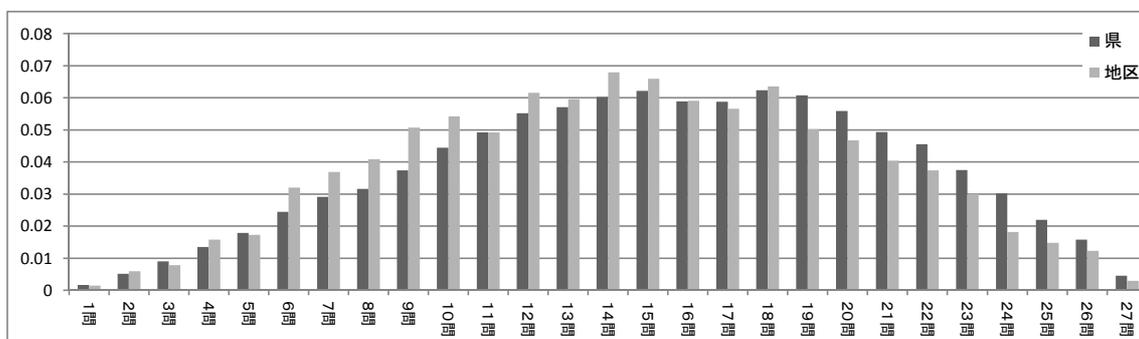
正答数(基礎・基本)の分布



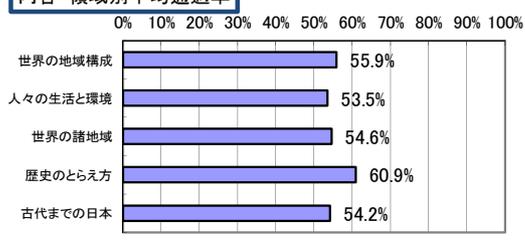
正答数(思考・表現)の分布



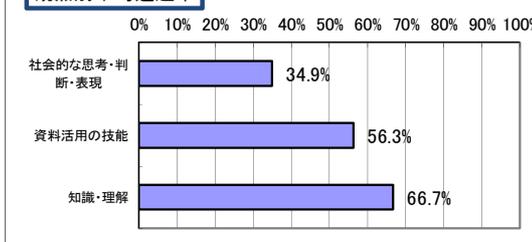
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



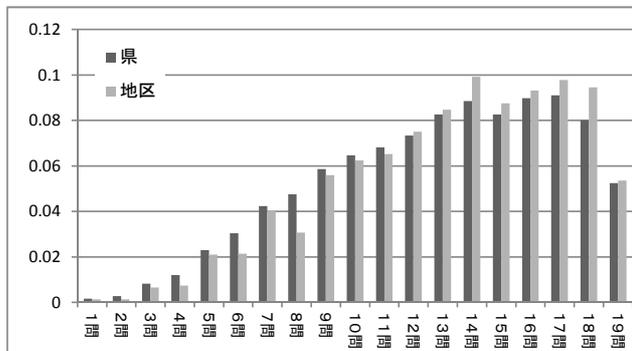
- 「基礎・基本」については、平均通過率 63.4%であり、目標通過率の7割には達していない。県平均を3.1ポイントと大きく下回っており、課題が大きい。特に、「気候帯の特色とその分布等の理解を問う問題」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 34.9%と設定通過率の5割には達していない。県平均を1.0ポイントと下回っており、課題が大きい。特に、「目的に応じた様々な地図について、その特徴を説明すること」や、「気候の特徴を海流や風の影響と関連付けて説明すること」、「古代文明の特色を正しく述べること」等に関する問題の通過率が低い。
- 正答数の分布については、県よりも上位層の割合が大幅に低く、下位層の割合が高くなっている。特に「基礎・基本」における下位層の割合が高いことから、基礎的・基本的事項の定着が大きな課題となっていることが分かる。
- 今後の取組としては、地図や表、グラフ等、様々な資料の基本的な見方を確実に理解させるとともに、資料から分かることを、自分の言葉で文章化させたり、発表させたりすることで、理解を深化させ、表現力を高めるような授業展開が必要である。また、書くことが苦手な生徒への学習支援策をとり、書く時間を適切に取り入れるなど、個に応じた指導に努める必要もある。

中学校第2学年

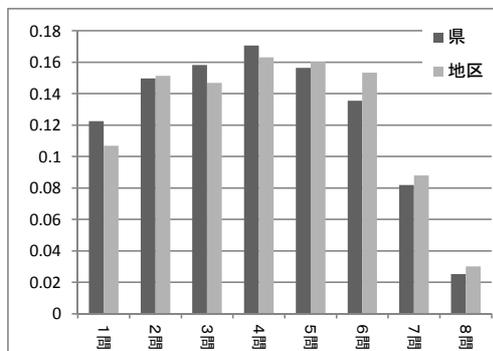
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	67.5	69.7	2.2
思考・表現	46.3	48.1	1.8
全体	61.2	63.3	2.1

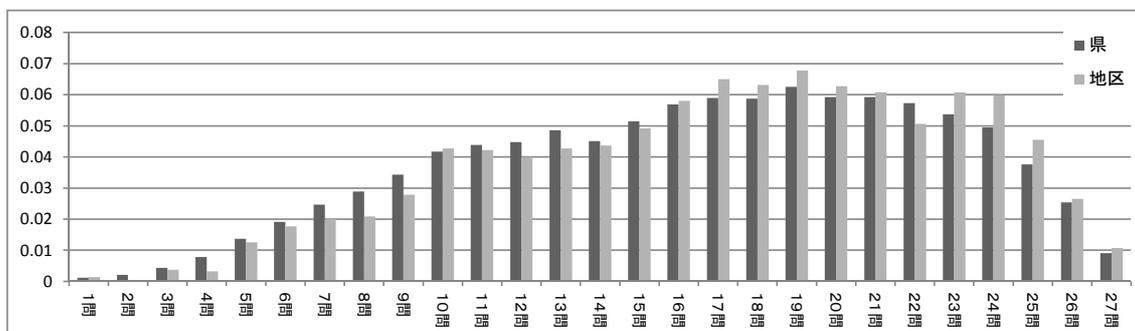
正答数(基礎・基本)の分布



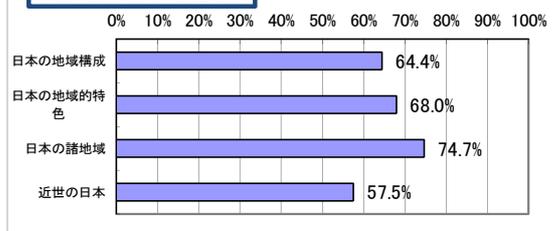
正答数(思考・表現)の分布



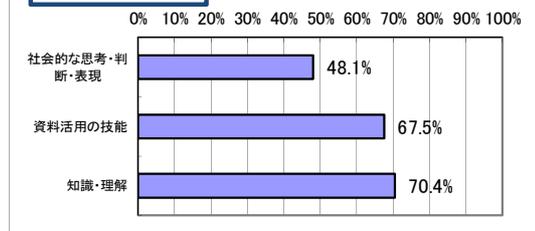
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 69.7%であり、目標通過率の7割を概ね達成しており、県平均を2.2ポイントと大きく上回った。概ね定着は図られているが、課題としては、「ヨーロッパ人による新航路の開拓についての理解」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 48.1%であり、目標通過率の5割には満たなかったが、県平均を1.8ポイントと大きく上回った。しかし、「宗教改革とその後のヨーロッパの海外進出を結び付けて考えること」や、「江戸時代の幕政改革の理解に関する問題」等の通過率が低く、課題が見られた。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。「基礎・基本」「思考・表現」共に、県よりも上位層の生徒の割合が大幅に高くなっている。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、複数の資料を読み取り、解釈し、関連付けるような活動の設定が必要である。また、地図やグラフ等、多様な資料から気付いたことを基に、自分の言葉で、その要点を文章化し、発表させたり、生徒相互に考えや意見を交流させたりするなど、習得した知識・技能を積極的に活用する場の工夫により、更なる学力向上が期待できる。

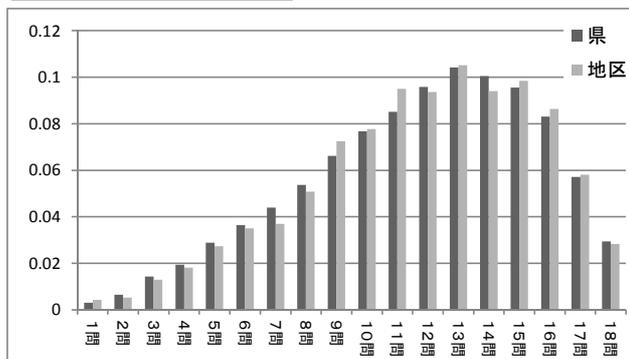
(3) 【算数】

小学校第5学年

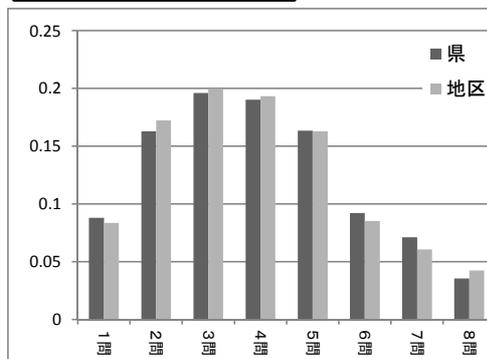
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	65.0	65.3	0.3
思考・表現	46.8	46.8	0.0
全体	59.4	59.6	0.2

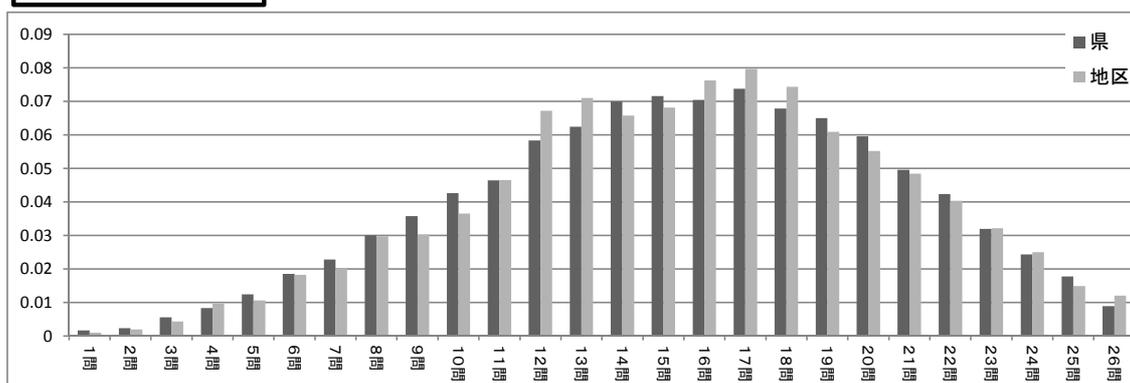
正答数(基礎・基本)の分布



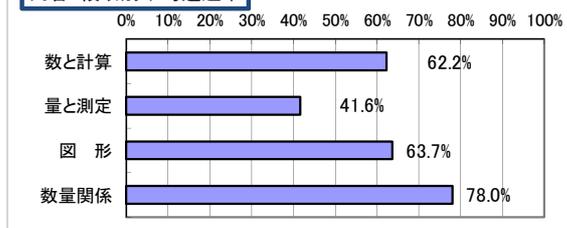
正答数(思考・表現)の分布



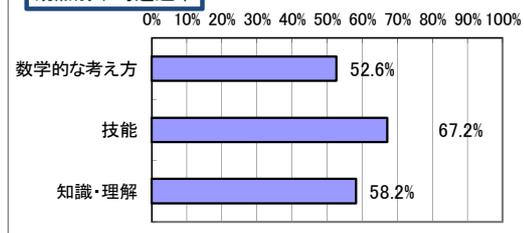
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



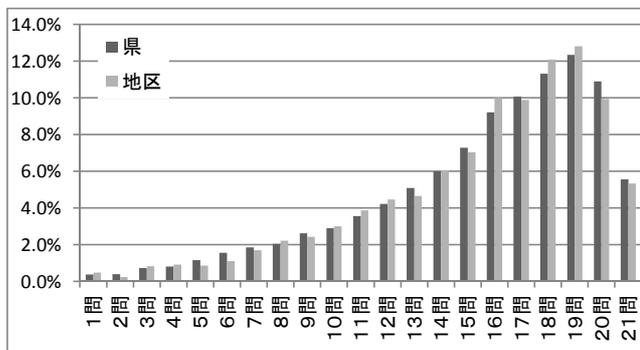
- 「基礎・基本」については、平均通過率 65.3%であり、目標通過率の7割には達していないが、県平均を0.3ポイントと僅かに上回っている。課題としては、「1に当たる大きさを求めるために、除法を用いて求めること」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 46.8%であり、設定通過率の5割には達成しておらず、県平均と同通過率であった。課題としては、「三角形の底辺や高さに着目して与えられた面積の関係を捉えること」や、「与えられた情報から、平均や総額の関係をもとに、値段を求めること」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも中位層の割合が高く、下位層の割合が低い。中位層の児童の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、基礎的・基本的事項の定着のために、2数の関係を図に表して立式させたり、思考力・表現力を身に付けさせるために、自分の思考の過程を公式やきまり、図・表を活用して説明させたりするなど、数学的な考え方を高めるための授業改善が必要である。

中学校第1学年

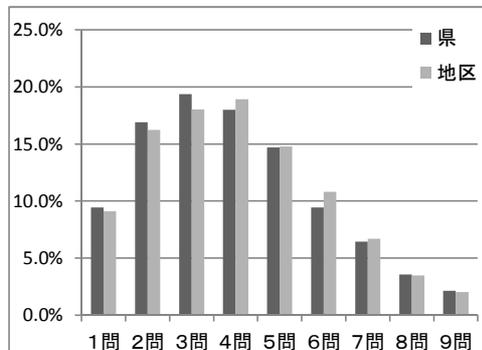
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	72.3	70.7	-1.6
思考・表現	39.1	40.0	0.9
全体	62.3	61.6	-0.7

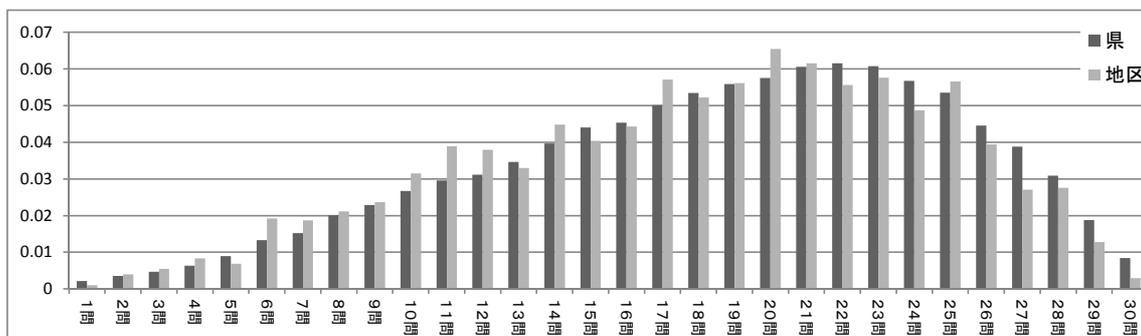
正答数(基礎・基本)の分布



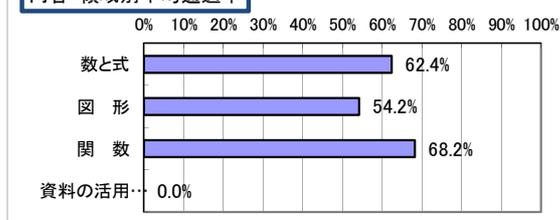
正答数(思考・表現)の分布



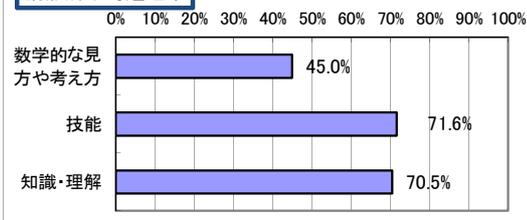
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



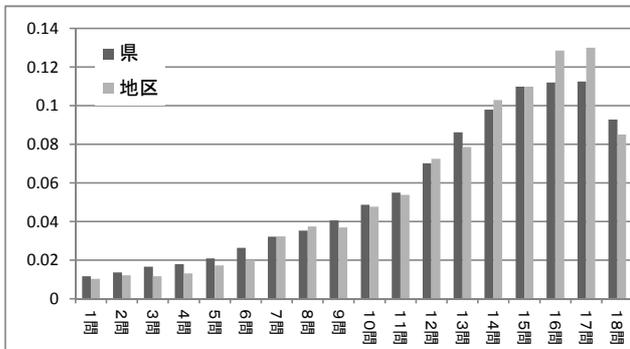
- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.7%であり、目標通過率の7割を達成したが、県平均を 1.6 ポイントと大きく下回った。特に、「立体の展開図を組み立てたときの辺と辺の位置関係に対する理解」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 40.0%と目標通過率の5割には達していないが、県平均を 0.9 ポイント上回った。課題としては、「線の並びの規則性をもとに与えられた条件に当てはまる数をもとめること」や、「与えられた条件をもとに平面図形の移動について考えること」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも上位層の割合が大幅に低く、下位層の割合が若干高い。県よりも学習集団の層のばらつきが大きく、県と比較すると学力の個人差が若干大きいようである。これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導に努めると共に、中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後の取組としては、生徒の思考力・表現力を育むために、言葉や数・式・図・表・グラフ等を用いて、自分の考えを根拠を含めて表現させたり、生徒同士で考えを交流させる中で新たな考えに気付かせたりするなど、生徒が主体となって取り組めるような学習活動の工夫による授業改善が必要である。

中学校第2学年

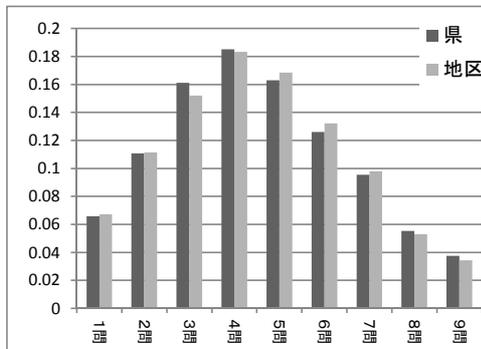
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	70.4	72.0	1.6
思考・表現	48.0	48.5	0.5
全体	62.9	64.2	1.3

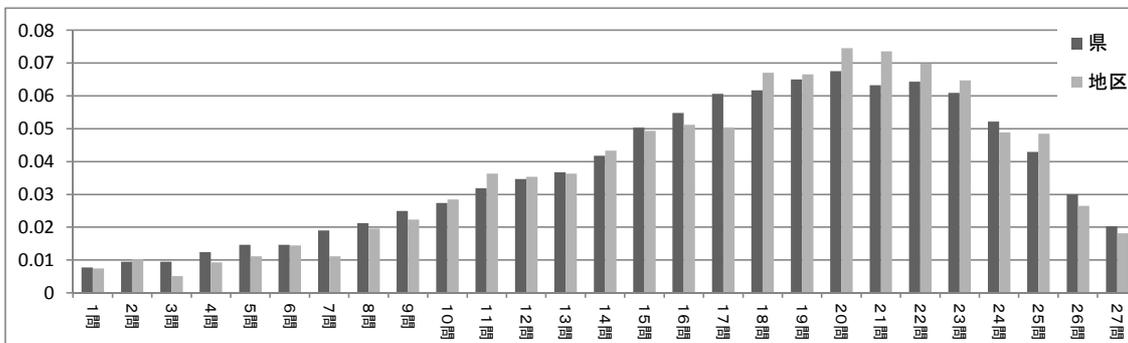
正答数(基礎・基本)の分布



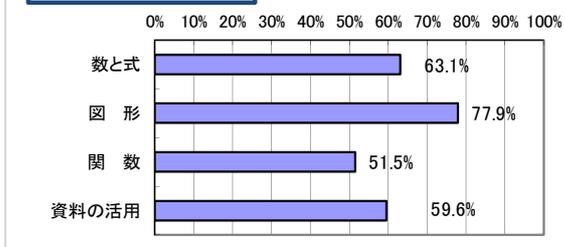
正答数(思考・表現)の分布



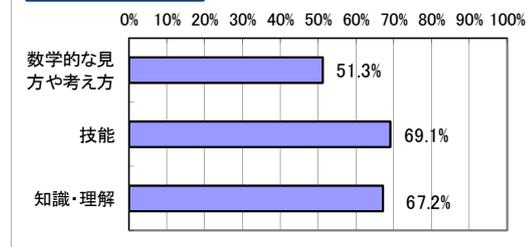
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 72.0%であり、目標通過率の7割に達している。県平均と比べても 1.6 ポイントと大きく上回った。概ね定着は図られているが、課題としては、「反比例の関係を式で表すこと」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 48.5%であり、目標通過率の5割には満たなかったが、県平均を 0.5 ポイント上回った。課題としては、「ヒストグラムをもとに、割合(相対度数)を利用して資料の傾向を読み取ること」や、「二つの図形の周の長さを文字を用いて表し、それらを比較すること」等が挙げられる。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が高く、下位層の割合が大幅に低い。特に「基礎・基本」の定着度においては、県よりも上位層の生徒の割合が大幅に高くなっており、「思考・表現」の定着度においては、県よりも下位層の生徒の割合が低くなっている。中位層の生徒の学力を更に引き上げることで、学習集団全体の更なる学力向上が期待できる。
- 今後の取組としては、ヒストグラムや代表値を用いて、資料の傾向をとらえ説明する活動をさせたり、具体場面を文字で表し、関連付けて理解させたりするような学習活動を工夫する必要がある。また、数学的な見方や考え方を身につけさせるために、思考の過程を言葉や図・式・表・グラフ等を用いて説明させるなど、学習活動の工夫による授業改善が必要である。

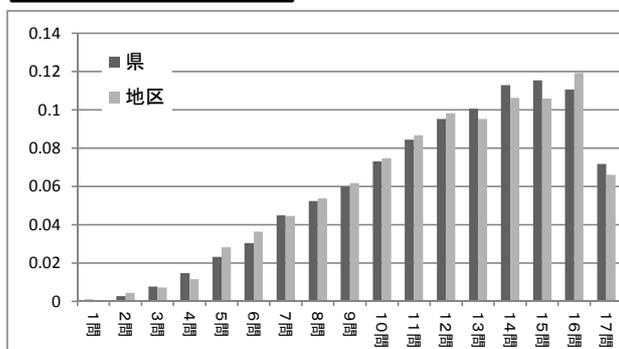
(4) 【理科】

小学校第5学年

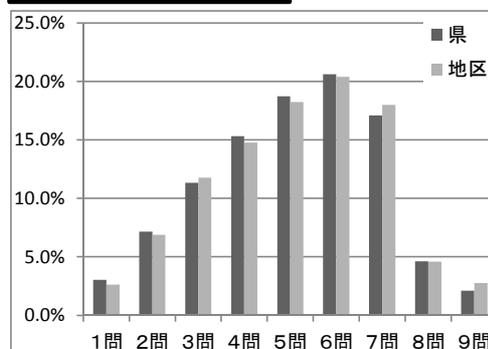
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	71.0	70.3	-0.7
思考・表現	62.8	62.8	0.0
全体	68.2	67.7	-0.5

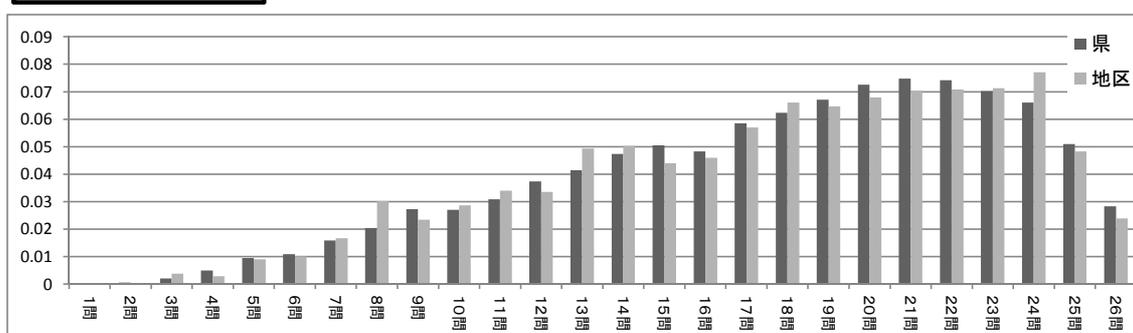
正答数(基礎・基本)の分布



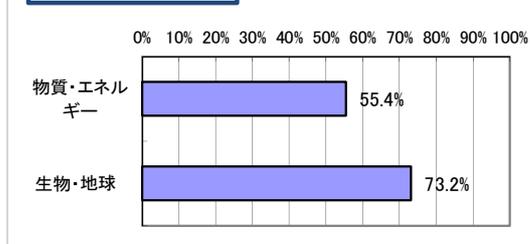
正答数(思考・表現)の分布



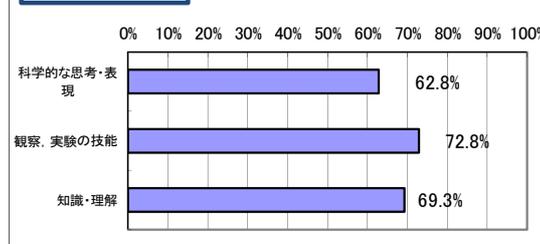
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



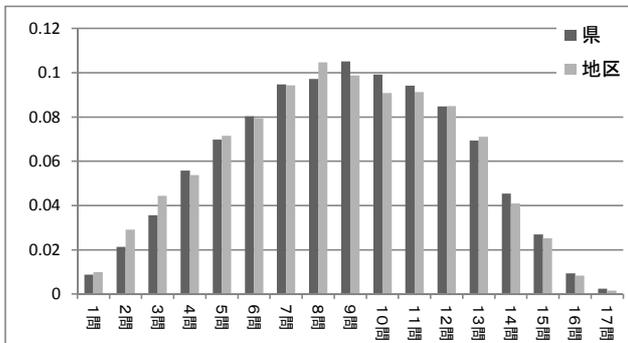
- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.3%であり、目標通過率の7割に達しているが、県平均を0.7ポイント下回っている。課題としては、「乾電池のつなぎ方による電流の強さの違いに対する理解」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 62.8%であり、目標通過率の5割を達成した。また、県平均と同通過率であった。概ね定着は図られているが、「水の量の変化と溶けている食塩の量を関連付けて理由を説明すること」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、県と概ね同様の傾向はあるが、県よりも学習集団の層のばらつきが大きく、県と比較すると学力の個人差が若干大きいことがうかがえる。これまで以上に個に応じた指導、個を生かす指導に努めるとともに、中位層の生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る必要がある。
- 今後の取組としては、自然に親しみ、生活経験を生かした授業を積極的に導入し、児童に「なぜだろう」といった知的好奇心を抱かせ、予想をもたせた上で、観察や実験を行わせることが大切である。また、結果から分かったことを考察し、自然の事物・現象について「なるほど、そうか。わかった」等の実感を伴った理解を図ることで、自分の言葉でまとめ、発表させるなど、児童の科学的な見方・考え方を高めるための授業改善が必要である。

中学校第1学年

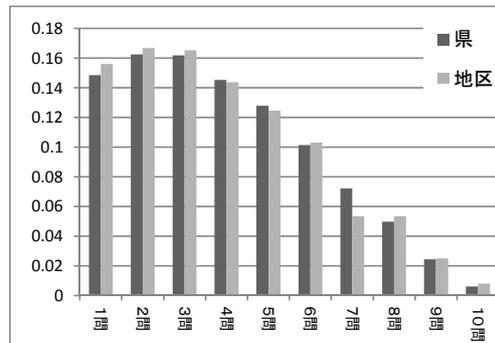
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	52.2	50.8	-1.4
思考・表現	38.3	37.0	-1.3
全体	47.1	45.8	-1.3

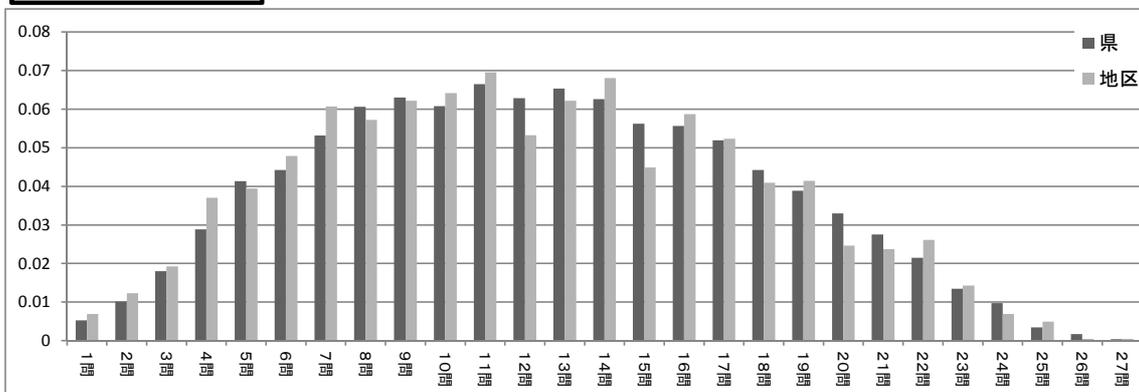
正答数(基礎・基本)の分布



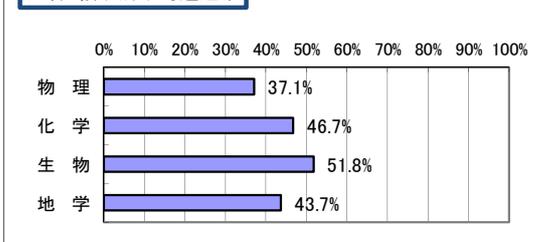
正答数(思考・表現)の分布



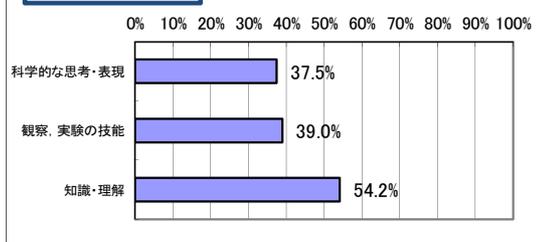
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



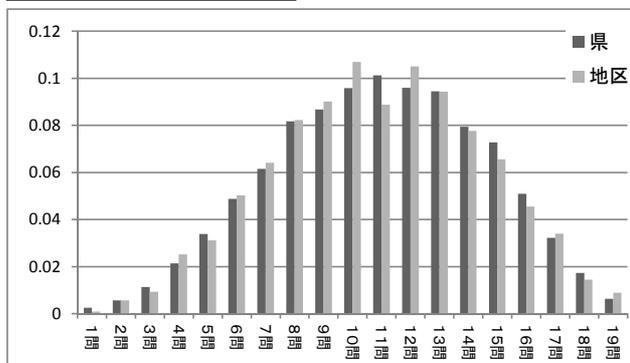
- 「基礎・基本」については、平均通過率 50.8%であり、目標通過率の7割には達していない。また、県平均を1.4ポイントと大きく下回っている。特に、「メスシリンダーの使い方について、メモリの読み方や読み取る位置と方向等の実験技能を身に付けているかを問う問題」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 37.0%であり、目標通過率の5割には達成していない。また、県平均を1.3ポイントと大きく下回っている。特に、「光の反射の道筋を考えることや、共鳴が起こる条件について理解し、考察すること」等に課題がある。
- 正答数の分布については、県よりも上位層と中位層の割合が低く、下位層の割合が高くなっている。特に「基礎・基本」における下位層の割合が高いことから、基礎的・基本的事項の定着が大きな課題となっていることが分かる。
- 今後の取組としては、導入時において、日常生活における具体的な場面や自然の事物・現象をもとに、学習への課題意識を高めさせ、目的意識をもって、観察、実験等を行うような機会を設けることが大切である。また、見通しをもって、探求、考察し、自然の事物・現象について、科学的な根拠を基に説明する機会を積極的に設定することで、科学的な見方・考え方を養う等の授業改善が必要である。一方、生徒一人一人について習熟度を把握し、学習の定着が不十分な点や学習のつまずきに気付き、個に応じた手立てや支援策等の構築に努める必要がある。

中学校第2学年

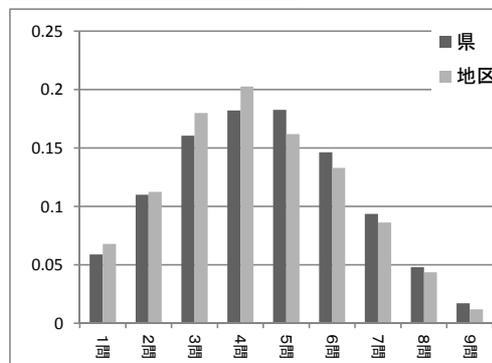
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	57.3	57.1	-0.2
思考・表現	48.9	47.4	-1.5
全体	54.7	54.0	-0.7

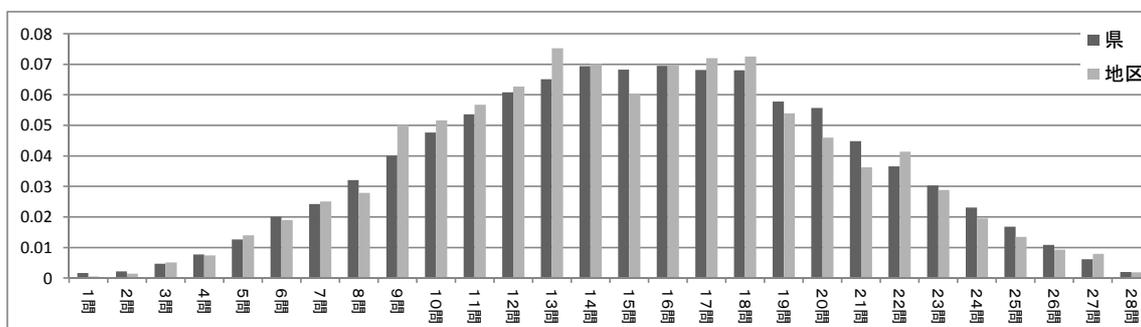
正答数(基礎・基本)の分布



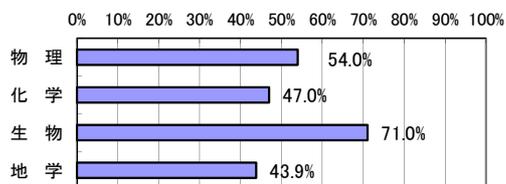
正答数(思考・表現)の分布



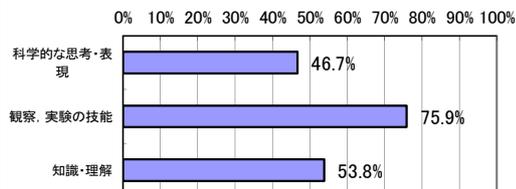
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



- 「基礎・基本」については、平均通過率 57.1%であり、目標通過率の7割には達していない。また、県平均を0.2ポイント下回っている。課題としては、「物体が及ぼす圧力を求める式を立てること」や、「地震の性質に対する理解」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 47.4%であり、目標通過率の5割には達していない。また、県平均を1.5ポイントと大きく下回った。特に、「分子数を考え、還元による化学変化をモデル図で表すこと」や、「火成岩について、観察結果をもとにでき方を考察し、説明すること」等に関する問題において課題が見られた。
- 正答数の分布については、下位層の割合は決して高くはないが、県と比較すると学力の層のばらつきが若干大きくなっている。特に「基礎・基本」の定着度において、その傾向が強くなっている。これまで以上に、個に応じた指導、個を生かす指導の充実が望まれる。
- 今後の取組としては、導入時において、単元への興味関心や課題意識を高めさせる工夫として、自然の事物・現象をもとに、既習事項や生活体験との関連を図りながら、学習を展開することが大切である。また、結果を予想させ、目的意識をもって、観察、実験等を行い、得られた結果を詳細に分析し、科学的な根拠を基に説明する機会を積極的に設定することで、科学的な見方・考え方を養う等の授業改善が必要である。一方、生徒一人一人について習熟度を把握し、学習の定着が不十分な点や学習のつまずきに気づき、個に応じた手立てや支援策等の構築に努める必要がある。

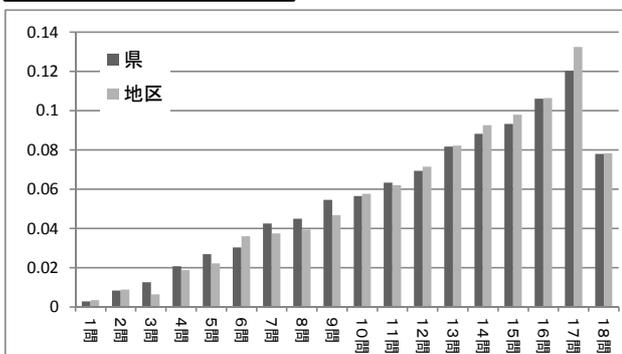
(5) 【英語】

中学校第1学年

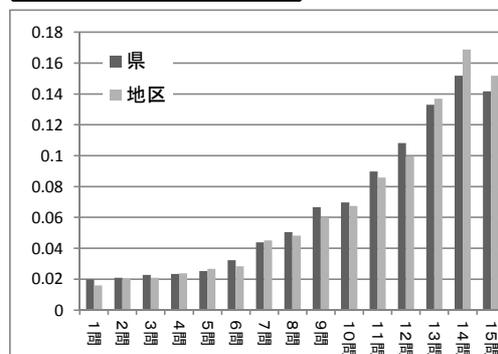
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	69.9	70.8	0.9
思考・表現	71.7	72.7	1.0
全体	70.7	71.7	1.0

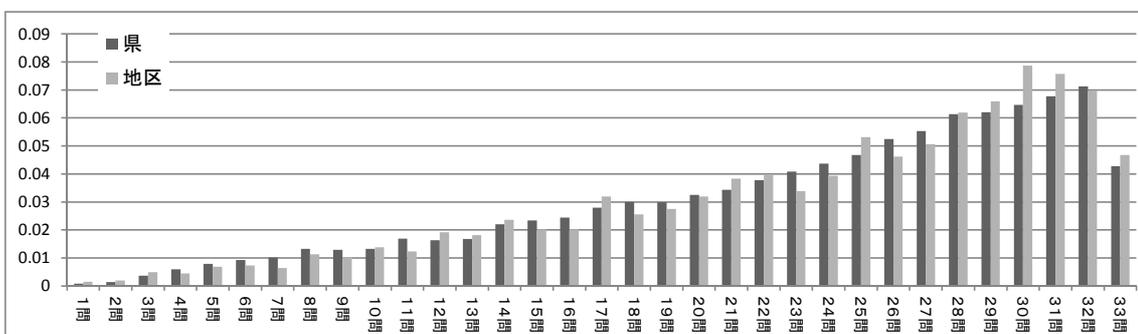
正答数(基礎・基本)の分布



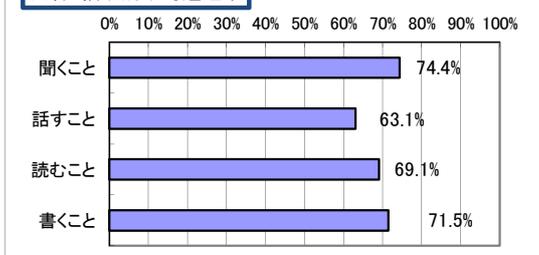
正答数(思考・表現)の分布



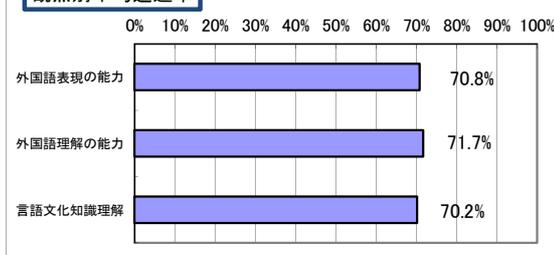
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率



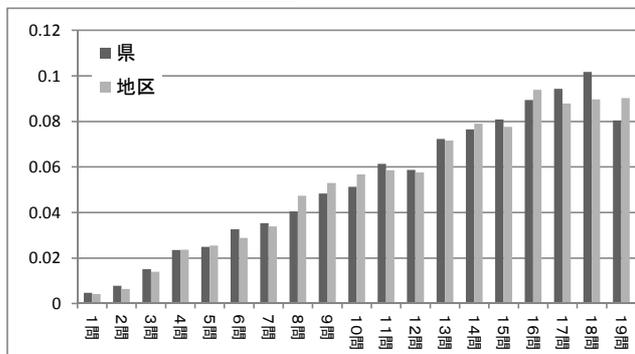
- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.8%と目標通過率の7割を達成し、県平均を0.9ポイント上回っている。概ね定着が図られているが、「[主語(it) + be 動詞]の疑問文をつくる設問」の通過率が低く、「文字や符号を識別し、語と語の区切り等に注意して正しく書くこと」等に課題が見られた。
- 「思考・表現」については、平均通過率 72.7%と目標通過率5割を大きく上回り、県平均を1.0ポイント上回った。概ね定着が図られているが、「英作文において、自分の意思が正しく伝わるように、文と文のつながり等に注意して文章を書く設問」の通過率が低く、「状況に応じて正確に英語を書いて表現すること」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、「基礎・貴本」「思考・表現」ともに、県よりも上位層の割合が大幅に高く、下位層が若干低くなっており、確かな学力が身に付いていることがうかがえる。
- 今後の取組としては、基本的な語や表現について、様々な状況や場面設定の中で繰り返し使用させ、言語の形態や意味だけでなく機能についての理解も深めながら、「聞く」「読む」活動を通して理解したことに基いて、「話す」「書く」活動を通して表現させ、4技能を有機的に統合させるなど、総合的な表現力を高める授業の展開により、更なる学力の向上が期待できる。

中学校第2学年

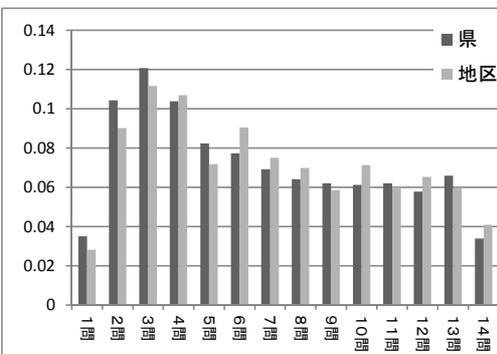
学年別平均通過率

	県	地区	県との差
基礎・基本	68.1	68.2	0.1
思考・表現	47.7	49.4	1.7
全体	59.4	60.2	0.8

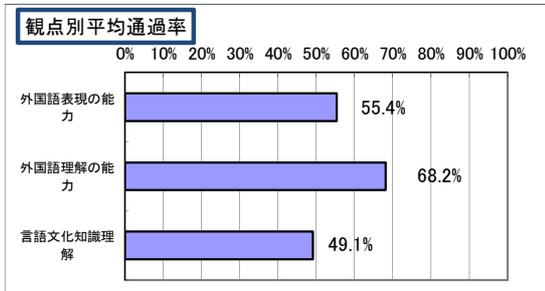
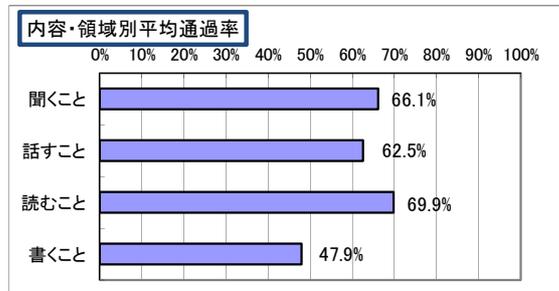
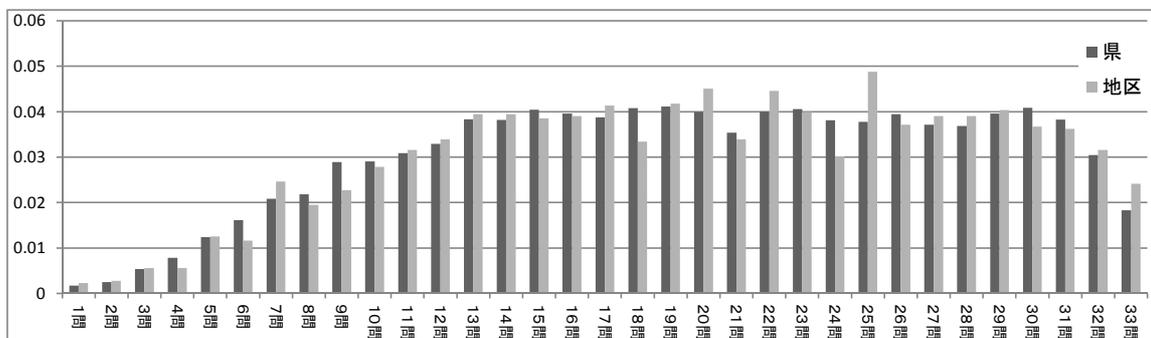
正答数(基礎・基本)の分布



正答数(思考・表現)の分布



正答数(全体)の分布



- 「基礎・基本」については、平均通過率 68.2%と目標通過率の7割に達していないが、県平均を0.1ポイントと僅かに上回っている。課題としては、「疑問詞 Where を用いた質問に適切に答えること」等が挙げられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 49.4%と目標通過率5割に僅かに足りなかったが、県平均を1.7ポイントと大きく上回った。「与えられたテーマについて、読み手に正しく伝わるように、英文を書く設問において、単文レベルではある程度書けていても、3文目になると無答率が高くなる」等、「相手の意向を捉え、文と文のつながりを意識しながら、自分の意思を論理的に書くこと」等に課題が見られた。
- 正答数の分布については、「基礎・貴本」「思考・表現」ともに、県よりも上位層と中位層の割合が高くなっているが、学力の層のばらつきも大きい傾向がある。これまで以上に、個に応じた指導、個を生かす指導が求められる。
- 今後の取組としては、ある程度まとまりのある分量の英文を読み、その概要を正しく捉えながら、つながりのある複数の英文を書き、読んだ内容に適切に対応する表現をさせたり、様々な場面設定の中で、音声によるインタラクション等を通して、表現に必要な技能等の習熟を図った上で、自分の考えや意見を書く活動に取り組みせたりする等、4技能の関連付けを意識した授業の展開が必要である。

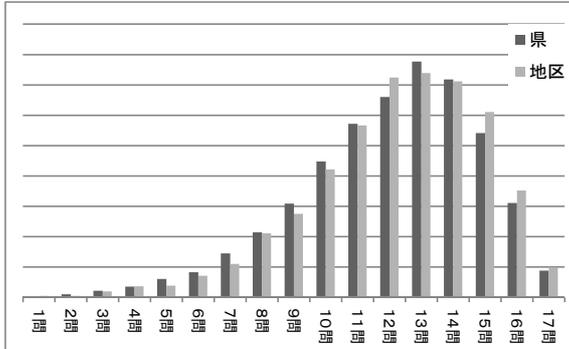
3 受検者の正答数分布からの考察～学力の実態と授業改善の方向性～

ここでは、本地区の調査実施学年における各教科の「基礎・基本」「思考・表現」ごとの正答数の分布を、特徴的なタイプに分類し、学力の定着状況の実態とそれに応じた指導の方向性を考察する。

基礎・基本

タイプA

中1国・中2国, 小5社, 中2社, 中1数, 小5理, 中1英で特徴的に見られる分布のタイプ



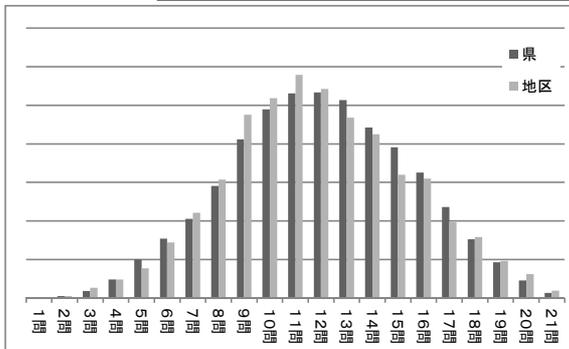
正答数分布の山が中央より右寄りであることから、下位層の割合が低く、中位層から上位層の割合が高くなっていることが分かる。



「基礎・基本」の定着は十分図られていると思われる。「思考・表現」を高める授業へ思い切ってシフトチェンジすることが望まれる。

タイプB

小5国, 小5算で特徴的に見られる分布のタイプ



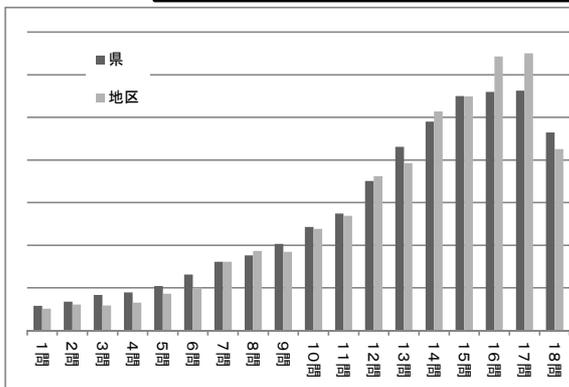
正答数分布の山が中央寄りであることから、中位層が学習集団の大多数を占めていることが分かる。



「基礎・基本」の定着は概ね図られていると思われる。基礎的・基本的事項の丁寧な指導から、「思考・表現」を高める授業へ段階的にシフトチェンジすることが望まれる。

タイプC

中2数, 中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



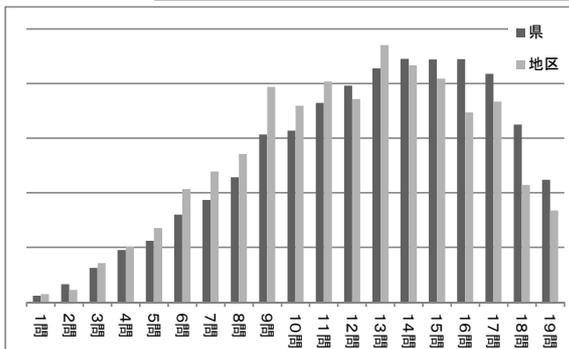
正答数分布の山は右寄りであるが、左端にも分布が見られることから、上位層の割合が高い反面、下位層の児童生徒も少なくはないことが分かる。



「基礎・基本」の定着が十分に図られている児童生徒が多いが、同時に、基礎学力が身に付いていない児童生徒もあり、学力差が見られる。下位層へのきめ細かい指導と同時に、「思考・表現」を高める授業を展開する等、個に応じた指導の工夫を図ることが望まれる。

タイプD

中1社, 中1理, 中2理で特徴的に見られる分布のタイプ



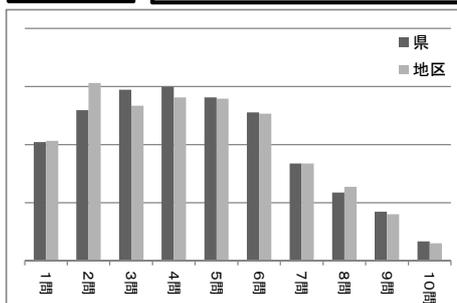
正答数分布の山が中央から左右二つに分かれており、右端にも左端にも分布が見られることから、学習集団の層のばらつきが大きいことが分かる。



「基礎・基本」の定着が十分に図られている生徒とそうでない生徒の学力差が大きく、学力の定着状況にばらつきが見られる。個に応じた指導の工夫を図りながら、「思考・表現」を高める授業を展開することが望まれる。

思考・表現

タイプA 小5国, 中1数で特徴的に見られる分布のタイプ

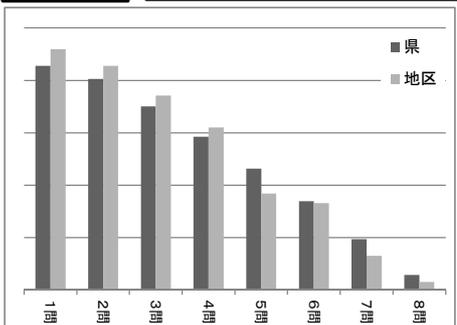


正答数分布の山が中央よりやや左寄りであることから、下位層と中位層の割合が高く、上位層の割合が低くなっていることが分かる。



単元を貫く言語活動の質を少しずつ上げる等、段階的に「思考・表現」を高める授業ヘシフトチェンジすることが望まれる。

タイプB 中1社, 中1理で特徴的に見られる分布のタイプ

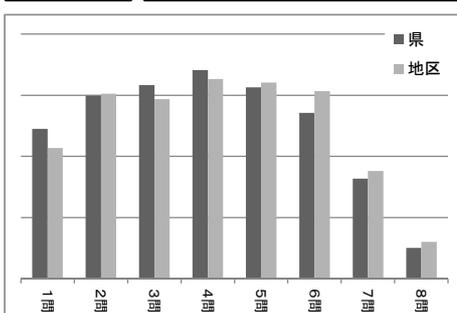


正答数分布の山が大きく左に寄っていることから、下位層の割合が高く、上位層、中位層の割合が低いことが分かる。



「思考・表現」を高める授業が十分に行われていない、或いは行われていても成果が上がっていないことがうかがえる。「思考・表現」にフォーカスした授業の進め方について学年部や教科部等で共通理解し、実践に取り掛かることが望まれる。

タイプC 小5算, 中2国, 小5社, 中2社, 中2数, 小5理, 中2理で特徴的に見られる分布のタイプ

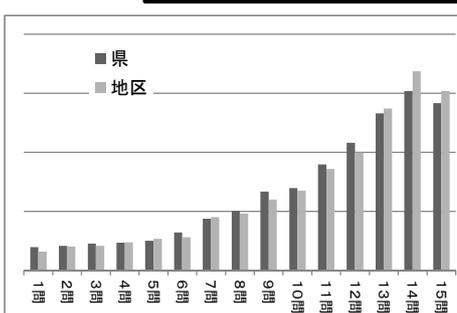


正答数分布の山は中央寄りであることから、中位層の割合が高いことが分かる。また、左側にも分布があることから、下位層の割合も低くないことが分かる。



「思考・表現」を高める授業を展開し、学習集団の大多数を占めている中位層の引き上げを図ることで、全体の学力向上を目指すとともに、個に応じた指導の充実にも努めることが望まれる。

タイプD 中1国, 中1英で特徴的に見られる分布のタイプ

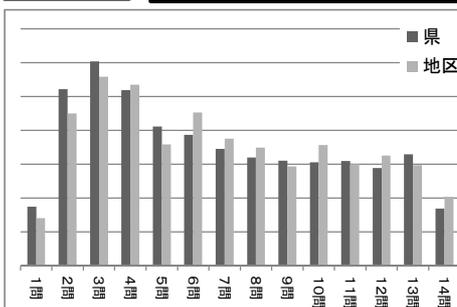


正答数分布の山が大きく右に寄っていることから、上位層の割合が高いことが分かる。反面、左端にも分布が若干見られることから、下位層の生徒がいることも分かる。



「思考・表現」の定着が概ね図られつつあることがうかがえるが、下位層にも分布が見られることから、引き続き「思考・表現」を高める授業を展開するとともに、個に応じた指導の充実にも努めることが望まれる。

タイプE 中2英で特徴的に見られる分布のタイプ



正答数分布の山が中央から左右二つに分かれており、右端にも左端にも分布が見られることから、学習集団の層のばらつきが大きいことが分かる。



「思考・表現」の定着が十分に図られている生徒とそうでない生徒の学力差が大きく、学力の定着状況にばらつきが見られる。個に応じた指導の工夫を図りながら、「思考・表現」を高める授業を展開することが望まれる。

II 授業改善に向けての参考例

～始良・伊佐コアティーチャーネットワークプロジェクト研究・実践より～

【小学校国語】授業改善に向けての参考例「書くこと（推敲・交流）」
「鑑賞文の書き方について交流しながら、モデル文をよりよく推敲する力をつける授業例」

ねらい

- 『鳥獣戯画』を読む」で読み取ったことを基に、絵の魅力を伝える鑑賞文の書き方について交流しながら、モデル文をよりよく推敲することができるようにする。

学習指導要領における内容

〔第5・6学年〕 B 書くこと ※C 読むこと(1)イ・ウとの関連を図る。

- (1) オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

授業アイデア例（2教材を効果的に活用して単元を構成した例）

『鳥獣戯画』を読む」で読み取った推敲のポイントを基に、鑑賞文①（不十分なモデル文）をよりよい鑑賞文に書きかえよう。

主な学習内容・活動

- 単元の概要をつかむ
 - 鑑賞文①のよさ・課題を見付ける。
 - K J法で意見を整理する。
 - 単元の目標・学習計画を立てる。
- 『鳥獣戯画』を読む」で推敲のポイントをつかむ
 - 教材文の要旨をとらえる。
 - 教材文で推敲のポイント（筆者の説明の工夫）を拾い出す。
 - K J法を用いて、推敲のポイント（筆者の説明の工夫）を整理する。
 - ポスターセッションで意見交流会をする。
- 推敲のポイントを生かして、鑑賞文①を推敲する
 - 推敲のポイントで生かしたいものを三つ選択する。
 - 推敲のポイントを踏まえて、鑑賞文①を推敲する。
- 推敲した鑑賞文の交流をする
 - 小グループ→中グループで魅力的な鑑賞文を書いた代表者を選び、紹介してもらいそれらのよさを交流する。

主な発問・指示

- 鑑賞文①(※資料1)は、どこを工夫できますか。それを付箋に書いて、グループでまとめましょう。
- 高畑さんは、鳥獣戯画が人類の宝だということをどのように説明していますか。それを一つの付箋に一つ書きましょう。
- グループで似たカードごとに分類して、小見出しをつけます。たくさんの中から三つを選び、紹介しましょう。
- 友達との交流の中で納得した推敲のポイントを使って、鑑賞文①を推敲しましょう。
- 魅力的な鑑賞文を発表する代表者と推薦者を決めなさい。推薦者は、その鑑賞文のどこが素晴らしいのかを紹介しましょう。

留意点

- ・ K J法で比較・分類したり、ラベリングしたりする経験をさせる。(※資料2)
- ・ 筆者の説明の工夫を付箋(資料3)に書かせ、導入で行ったK J法を使って、推敲のポイントを整理(※資料4)し、ポスターセッションで交流させる。(※資料5・6)
- ・ 推敲のポイントを明確に意識するようにワークシートの中に明記させる。(※資料7)
- ・ 代表者は鑑賞文で絵の魅力を、推薦者には鑑賞文の形式的な魅力を紹介させる。

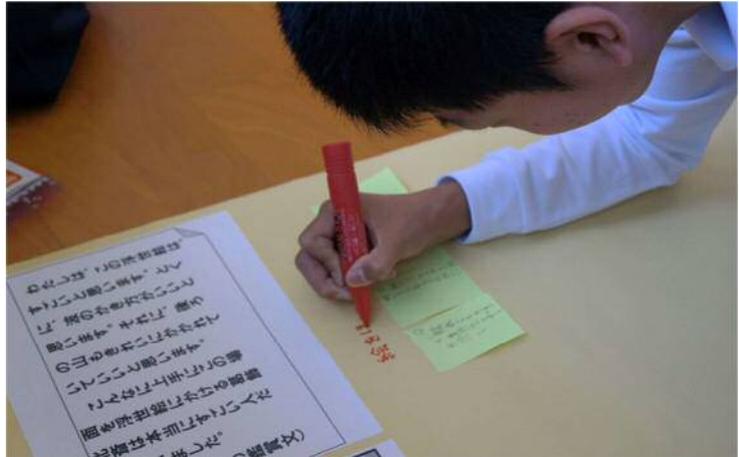
単元を通じた言語活動：探り出した推敲のポイントを基によりよい鑑賞文を書こう

不十分なモデル文をよりよくしたいという目的の下、『鳥獣戯画』を読む」から推敲のポイント（説明の工夫）を探り、さらにK J法やポスターセッションなどで友達と考えの交流を通して理解を深め、そこで得た推敲のポイントを基によりよい鑑賞文へと推敲させる言語活動である。

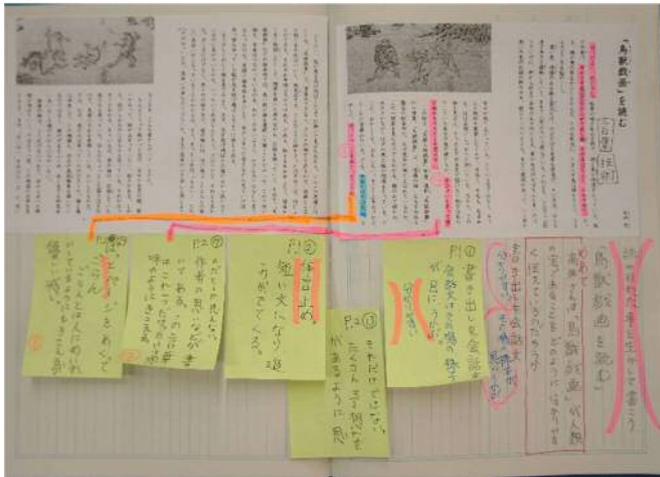
【資料1】鑑賞文①(モデル文)

わたしは、この浮世絵は、すごい
 と思います。とくに、波のかき方が
 いいと思います。それに、後ろの山
 もきれいにかかれています。いいと思
 います。
 こんなに上手にこの場面を浮世絵
 にかける葛飾北斎は本当にすごい人
 だなどと思いました。

【資料2】KJ法で鑑賞文①に対する意見をまとめる子ども



【資料3】説明の工夫を付箋にまとめた子どものノート



【資料5】交流のポイント



【資料6】ポスターセッション交流会



【資料7】推敲のポイントを明確にさせるワーク



ともみさんの鑑賞文をリライト(推敲)しよう!

わたしは、この浮世絵は、すごいと思いま
 す。とくに、波のかき方がいいと思いま
 す。それに、後ろの山もきれいにかかれてい
 います。
 こんなに上手にこの場面を浮世絵にかける
 葛飾北斎は本当にすごい人だと思いました。
 (ともみさんの鑑賞文)

①
 ②
 ③

「リライト(推敲)のポイント」

【中学校国語】授業改善に向けての参考例「書くこと（推敲・交流）」
「批評文をジグソー法を用いて協働的に推敲する授業例」

ねらい

関心のある事柄について批評する文章を書き、相互評価をして推敲すべき点を話し合いから見だし、分かりやすく文章全体を整えることができるようにする。

学習指導要領における内容

〔第3学年〕 B 書くこと

(1) ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

授業アイデア例

二宮さんのクラスでは生徒会に公募された体育大会スローガン3つのうちどれを選ぶのか文章で提出することになりました。次の【**体育大会スローガン募集要項**】と【**応募された体育大会スローガン**】を読み、どのスローガンがよいか考え批評文を書きましょう。

主な学習内容・活動

- 1 学習課題をつかむ。
 - ・ 根拠を明確にした批評文にはどのような工夫があるか考える。
- 2 応募要項を読み、どのスローガンがよいか批評文を書く。
- 3 班で互いの批評文を読み合い、推敲すべき点を話し合う。
 ※ジグソー法（次頁参照）
- 4 話し合いをもとに批評文を推敲する。
- 5 推敲した批評文を読み合い（班や全体）、よく書けている点をまとめる。

主な発問・指示

- この単元の学習では関心のある事柄について批評文を書き、推敲します。分かりやすく明快な批評文を書くにはどのように書けばいいのか考えてみましょう。
- 「好き」「嫌い」で書くのではなく、その「理由」や「根拠」を明確にすることが批評文には大切です。
- 語句・根拠・引用・構成のエキスパートがそれぞれ担当する推敲の観点を中心にいい点、書き直すべき点を付箋に書きましょう。
- よく書けていた友達の文章を参考に書き換えましょう。
- 分かりやすく明快な批評文にはどのような工夫がありましたか。

留意点

- ・ 単元への興味・関心を高めるために、実際に使われたスローガンを用いてもよい。
- ・ 個で取り組ませ、その後、ペアで意見交換させる。
- ・ 交流の観点を明確にし、身に付けさせたい項目について話し合うように配慮する。
- ・ 初めから書けていた生徒や早く書き終えた生徒には分かりやすい批評文について自分なりの意見をまとめさせておく。

重要事項

交流の場面が誤字・脱字のチェックに終わらず、結論に導くための根拠の取り上げ方や論理の展開の仕方について相互に練り上げる話し合いが進むよう、交流の場面を充実させることが大切である。

【ジグソー法を用いて相互に推敲する授業例】

1 ジグソー法の大まかな流れ

- (1) 4人グループを作り、**語句・根拠・構成・原稿用紙**の4つの役割を分担する。なお、このグループを**ホームグループ**と呼ぶ。
- (2) 一度グループを解体し、同じ役割を担った者同士で集まる。そしてそれぞれの役割では推敲するときどのような視点でどんなふうに文章を直していけば良いのか学習する。なお、このグループを**エキスパートグループ**と呼ぶ。
本授業では教室の四隅に机を設置し、必要な資料を置いておく。
- (3) 再び**ホームグループ**に戻り、グループ右前の生徒の作文から推敲する。この時、語句担当のエキスパートは語句を中心に作文を読みアドバイスをし、根拠担当のエキスパートは結論と根拠の関係がふさわしいかどうかを中心に読むなど、それぞれの役割に沿ってアドバイスをする。

2 エキスパートグループにおける資料例

各資料はA4一枚で作成し、推敲した作文の例を添付するとわかりやすい。ここでは簡易的な表記に止めているが、実態に合わせて内容を充実させると学びが深まる。

「語句」のエキスパートがみる推敲の観点

- ☆ 漢字や語句の間違いがないかどうか。
 - ・ 特に「～したり」「なので～」などの間違いに注意。
- ☆ ていねいな読みやすい字で書いているかどうか。
- ☆ 読み手（中学2・3年生）にふさわしい言葉を使っているかどうか。
- ※ このエキスパートを担当した人は辞書を一冊持って行ってください。

生徒がよく間違える例を実態に合わせて提示する。

「根拠」のエキスパートがみる推敲の観点

- ☆ なぜそのスローガンを選んだのか根拠を明確に書いているか。
 - ・ 学校やクラスの実態を根拠に挙げている。
 - ・ 応募要項を満たしているかどうかを根拠に挙げている。
- ※ 今回の学習で一番大切な役割です。君たちに今回の学習が充実するかどうかがかかっています。よろしくお願いします。

「構成」のエキスパートがみる推敲の観点

- ☆ 大段落が序論・本論・結論の三つに分かれているか。
- ☆ 頭括法・双括法・尾括法のいずれかを効果的に使っているか。
 - ※ 上記に加え、段落を入れ替えたり各段落の内容を変えたりすることでより分かりやすくなれないか検討できると作文の質が高まります。

「原稿用紙」のエキスパートがみる推敲の観点

- ☆ 段落はじめが一マス下がっているか。
- ☆ 引用はカギ括弧（「 」）を適切に使っているか。
 - ※ その他教科書〇ページの資料（原稿用紙の使い方）を見ながらチェックしましょう。

**【小学校社会】授業改善に向けての参考例「水産業のさかんな地域」
「資料を読み取り、関連付ける力を育成する授業例」**

ねらい

- 「水産業がさかんな地域では、どのようにふうや努力をして消費者に水産物をとどけているのだろうか」を学習課題とした単元において、水産業に関わる人たちのなやみや願いについて理解を深める。

学習指導要領における内容

〔第5学年〕(2) 我が国の農業や水産業について、次のこと(略)を調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

授業アイデア例

○ 調べる活動では、何を使い、何を読み取らせるかというねらいをもった資料の提示が重要である。また、複数の資料を関連付けながら説明させる指導も必要となる。この例は、複数の資料を関連付けながら水産業の課題についての理解を深めさせるものである。

単元の流れ【全7時間】

【第1時】 スーパーマーケットの鮮魚コーナーの観察、ちらしなどの資料の活用、水産業についての新聞記事などから問題意識をもつ。

水産業がさかんな地域では、どのようにふうや努力をして水産物を消費者にとどけているのだろうか。

【第2～4時】 漁の仕方や漁港から消費地を結ぶ運輸の工夫や努力などについて調べ、その理由について話し合う。

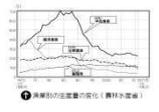
【第5時】 水産業の従事者の抱えるなやみや願いについて統計資料等を基に調べ、自分なりの改善策を考える。

【第6・7時】 水産資源の保護、育成の取組について調べ、今後の水産業で求められる工夫を生産者・消費者の立場から考え、話し合う。

水産業に関わる人たちは食料確保のために様々なくふうや努力をしている。

主な学習内容・活動

- 漁業別生産量の変化のグラフを提示する。



主な発問・指示

- 資料から分かることは何か。
- どこから読み取ったのか。

漁師の人たちは、どのようななやみや願いをもっているのだろうか。

- 漁業で働く人の数の変化のグラフや200海里水域の地図、北方領土の資料等を基に生産量の変化の原因について調べ、話し合う。

- 資料から分かることは何か。
- 生産量の変化につながることは何か。



気付いたことの発表だけでなく、資料を基に理由や根拠を述べさせる。

- 調べて分かったことを基に漁師の人たちのなやみや願いについて考えたことを記述する。



記述内容の観点を明示する。

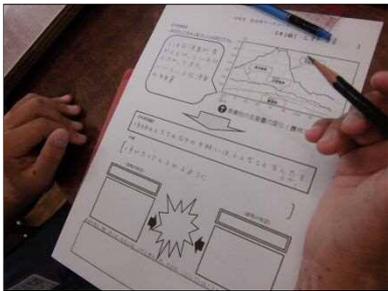
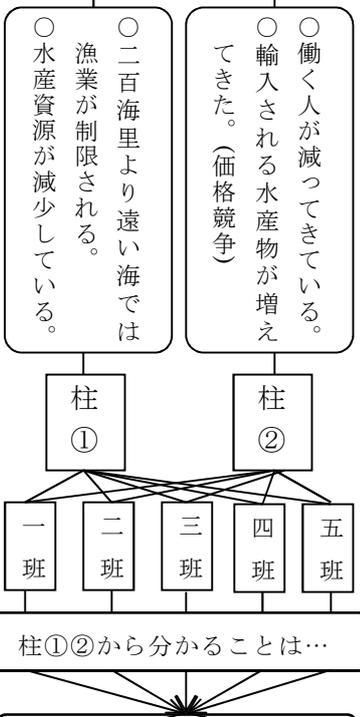
- 学習のまとめをする。

- そう考えたのはなぜか。
- ◆ ポストテストを実施する。

重点事項

- 観点や文例を示すなど、書くことが苦手な児童への手立ても工夫したい。
- 考えをまとめたり、発表したりする際、学習中に得た用語を適切に使うように意識させる。

【ジグソー学習を取り入れた本時案（5/7）時】

過程	主な学習活動	児童の思考のプロセス	活動の様子
つかむ	1 グラフを読み取り，気付いたことを発表する。 Q. このグラフから分かることは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠洋漁業が少なくなっているよ。 ・ 他の漁業の生産量も減っているね。 	①気付いたことを記入 
	準備：漁業別生産量のグラフ 2 生産量の変化から，漁師が抱える課題を予想し，学習問題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚が減ってきたのかも。 ・ 遠くの海で漁ができなくなってきたって新聞に載っていたよ。 	②一人調べ 
たてる	漁師は，どんななやみや願いをもっているのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚がとれなくて困っているかも。 	③柱ごとに検討 
	3 学習問題に対する予想を立て，追究の柱を立てる。 ・ 柱①：生産量が減ったわけ ・ 柱②：漁師が困っていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産量が減ったわけは何だろう。 ・ 漁師の人たちは今，どんななやみや願いをもっているのだろう。 	
しらべる	4 追究の柱について調べる。 〈追究活動の流れ〉 ア 学習班(あるいはペア)内で柱①か②を調べる担当を決め，決まった課題を調べる。 イ 各柱担当で集まり，調べて分かったことの検討を行う。 ウ もとの学習班に戻り，分かったことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働く人が減ってきている。 ○ 輸入される水産物が増えてきた。(価格競争) ○ 二百海里より遠い海では漁業が制限される。 ○ 水産資源が減少している。 	④意見の交流 
	(1) 一人調べをする。 「読み取り」 (2) 追究の柱ごとに調べたことを話し合い，考えを整理する。 「解釈」 (3) 班を再編成して，交流する。 「説明」		
たしかめる			⑤まとめ（論述） 
まとめる ひろげる	5 交流して分かったことを根拠として学習問題に対する自分の考えをワークシートにまとめる。 「論述」 6 振り返る。(ポストテスト)	生産量や働く人の減少になやみ，漁場や資源が元通りになることを願っている。	

【中学校社会】授業改善に向けての参考例「産業・交通の発達」
「地図の読み取りや資料等を活用することで、総合的に思考し、判断したことを表現する力を育成する授業例」

ねらい

資料を見て、その資料が表す事柄を把握し、読み取ったことを文にしたり、口頭で伝えるなどの表現力を育成する。さらに、複数の資料を複合的に考察し、表現する力を養う。

学習指導要領における内容

2 (4) ウ 産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを通して，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

指導のポイント

- 授業の中で、資料を読み取る時間を設定する。
- 読み取った内容を文章化させたり、発表させたりするなど、表現させる場面を工夫する。
- 読み取る資料を複数用意し、そこから分かることを複合的に考察できるようにする。

授業アイデア例

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 資料をみて、予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農業の生産力を向上させた農具の絵を見て、何が便利になったのかを予想する。 <p>2 資料（地図）から読み取ったことを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農業以外にどんな産業が発達し、各地の特産物にはどのようなものがあったのかを地図から読み取る。 ○ 読み取った内容をワークシートに記入し、発表する。 ○ 身近な地域の特産物となっている品物を発表する。 <p>3 複数の資料を見て、それぞれの資料から分かることを文にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 蔵屋敷が置かれ、全国から米や特産物が集まる大阪の様子から、「天下の台所」と呼ばれた理由をワークシートに記入する。 	<p>生徒に関心を持たせ、意欲を高めていく活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農具の絵から、どのような目的で、どのように使われたのか予想させることで、興味・関心を高める。 <p>生徒の資料を読み取る力を高め、表現力を高める活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートには、鉱山・特産物・交通網に分けて、記入させる。 ○ 生徒の実態に応じて、一斉ではなくペアやグループでの発表など学習形態を工夫する。 ○ 諸産業の発達により、交通網が整備され、物資を輸送するために海運業も発達したことに気付かせる。 <p>複数の資料を読み取り、それらを活用し、思考・判断・表現力を高める活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の資料をそれぞれ読み取り、さらにそれらの資料を複合的に考察させ、最終的に、その内容をまとめた一つの文を完成させる。

授業実践例

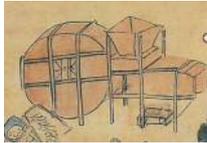
《板書例》

<p>めあて 江戸時代には、どのような産業が発達したのだろうか。</p> <p>○幕府や藩→新田を開発し、耕地面積が増える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の開墾や干拓 ・農具の改良→<u>備中ぐわ</u>、<u>千歯こき</u>、<u>唐箕</u> ・<u>商品作物</u>の栽培…わた、べにばななど <p>○他にも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉱山の開発…金山や銀山、銅山 ・水産業…いわし漁やにしん漁 ・各地に特産物（しょう油、塩など）ができる 	<p>○また、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五街道の整備 ・各地に港町、宿場町、門前町が栄える。 ・飛脚…手紙や荷物を運ぶ <p>○海運業の発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菱垣廻船、樽廻船→江戸～大阪の定期船 ・西廻り航路、東廻り航路→年貢米の輸送 <p>まとめ 江戸時代には農業の他、鉱山の開発や水産業も発達した。さらに各地に特産物もでき、それらを輸送するための海運業も発達した。</p>
---	--

《ワークシート例》

社会科（歴史）ワークシート 「農業や諸産業の発達」

1. 下の2つの農具は、どんな用途で使われたのだろうか。

<p>① </p>	<p>② </p>
用途	用途

2. 農業以外にどんな産業が発達し、各地の特産物にはどのようなものがあったかを教科書 p 113 の地図から読み取って、書きなさい。

鉱山	
特産物	
交通網	

3. なぜ、大阪は「天下の台所」と呼ばれたのだろうか。その理由を、教科書 p 113 と p 114 の2枚の絵から読み取って一文にしてみよう。

**【小学校算数】授業改善に向けての参考例「速さ」
「筋道立てて考え、説明する授業例」**

ねらい

速さの考えを利用して、多くの情報から課題解決に必要な情報を読み取り、速さや道のり、時間の求め方を筋道立てて説明することができるようにする。

学習指導要領における内容

〔第6学年〕 B 量と測定 (4) 速さ
速さについて理解し、求めることができるようにする。

授業アイデア例

【学習課題】 どの自動車が一番速いといえるでしょうか。

Ⓐ 2時間で120 km走る自動車 Ⓑ 3時間で210 km走る自動車 Ⓒ 20分で30 km走る自動車

主な学習内容・活動

- 学習課題を受け止める。
 - ・ ⒷとⒸは比べられない。
- 学習問題を焦点化する。

時間の単位が異なる自動車はどうすれば比べられるだろうか。
- 学習の見通しをもつ。
- ⒷとⒸの自動車の速さを比べる。(自力解決)
- 自分で考えたことを出し合い、考えた理由について話し合う。(全体解決)
- 本時の学習を確認する。

同じ時間あたりに進む道のりに
なおすと比べることができる。
- 適用問題を行い、本時の学習を振り返る。

主な発問・指示

- どの自動車が一番速いか予想してみましょう。
- どうしてⒷとⒸは比べられないのでしょうか。
- 時速や分速は、どんな意味でしたか。
- どうしたら速さを比べることができたか理由も説明できるようにしましょう。
- 式だけではなく、図も使って説明してみましょう。
- みんなが考えた方法の共通点は何だろうか。
- 速さを「秒速」に直すにはどうすればよいだろうか。
- 今日の学習で分かったことは何ですか。

留意点

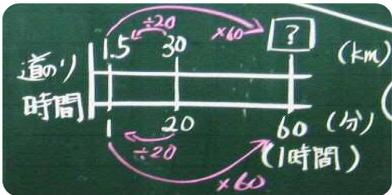
- ・ ⒷとⒸはなぜ比べることができないのか考えさせる。
- ・ 速さを求める公式や速さの表し方について確認する。
- ・ 解決に戸惑っている児童には、時計図や数直線などを用いて数量を捉えさせるようにする。
- ・ 考えの根拠を明らかにするために、式を図などと関係付けながら説明させるようにする。
- ・ 適用問題でも、解決の方法を説明させるようにする。

重点事項

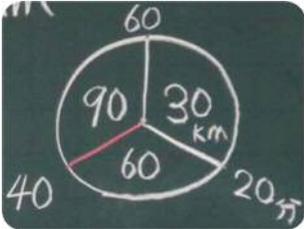
- ・ 速さの考えをもとに筋道立てて考え、自分の考えを相手に分かりやすく説明する活動を取り入れる。

【自分の考えを相手に分かりやすく説明するための児童の考え（案）と教師の働きかけ】

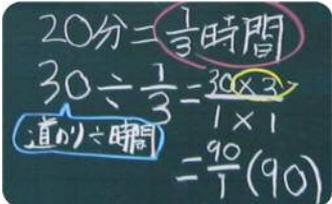
○ 数直線を用いて自分の考えを説明

児童の状況	教師の働きかけ
<p>C : $30 \div 20 = 1.5$</p> <p>C : 分速 1.5 km です。</p> <p>C : 1 分間あたりに進む道のりで表した速度です。</p> <p>C : 時速です。</p> <p>C : 分速を 60 倍すると時速になりそうだ。</p> 	<p>発 速さには種類があったよね。1.5 は、何の速さかな。</p> <p>発 分速は、どんな意味でしたか。</p> <p>発 求めたい速さは、何ですか。</p> <p>発 では、分かっていることや求めたいことを数直線にかいてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分速と時速の違いを数直線にまとめることで、数量の関係を視覚的に捉えることができ、分速から時速を求めることができると思われる。</p> </div>

○ 時計図を用いて自分の考えを説明

児童の状況	教師の働きかけ
<p>C : $20 \times 3 = 60$</p> <p style="padding-left: 100px;">$30 \times 3 = 90$</p> <p>C : 20 分の 3 倍が 1 時間だからです。</p> <p>C : 時計図だと分かりやすく説明できます。</p> 	<p>発 どうして 3 倍しているのかな。</p> <p>発 そうなんだ。式の意味をもっと分かりやすく説明することはできないかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>時計図を用いることで、時間と分の関係が明らかになり、3 倍することの意味を分かりやすく説明することができると思われる。</p> </div>

○ 速さの公式を用いて自分の考えを説明

児童の状況	教師の働きかけ
<p>C : $30 \div \frac{1}{3} = 90$</p> <p>C : 20 分を時間に直すと $\frac{1}{3}$ 時間です。</p> <p>C : 1 分 = $\frac{1}{60}$ 時間だから、それを 20 倍しました。</p> 	<p>発 $\frac{1}{3}$ は、何を意味しているのかな。</p> <p>発 20 分は、どうして $\frac{1}{3}$ 時間といえるのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1 分 = $\frac{1}{60}$ 時間であることをもとに分を時間で表すことで、速さの公式を用いて解決することができると思われる。</p> </div>

【中学校数学】授業改善に向けての参考例「平方根」
「平方根の考えがコピー機に用いられていることを知り，身近なことを数学的に考察する授業例」

ねらい

平方根が身の周りで使われていることを理解し，平方根の有用性を実感させ，平方根を用いてものごとを広く考察・処理することができるようにする。

学習指導要領における内容

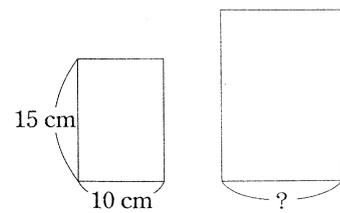
〔第3学年〕 A 数と式

- (1) 正の数の平方根について理解し，それを用いて表現し考察することができるようにする。
- ア 数の平方根の必要性と意味を理解すること。
 - ウ 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。

授業アイデア例

次郎さんは，生徒会新聞を作成する途中，コピー機で縦が15cm，横が10cmの紙を2倍の面積に拡大する作業を行った。面積を2倍に拡大したとき，横の長さは何cmになるか。

平方根の考えを利用して，途中の過程も書くこと。



主な学習内容・活動

- コピー機の拡大縮小機能について理解する。
- 面積を2倍に拡大することは，200%でないことを確認する。
- 課題解決に取り組む。
- グループで自分の考えを説明する。
- 全体で様々な式を確認し，考えを整理する。
- 実際のコピー機の表示を確認し，まとめをする。

主な発問・指示

- コピー機で200% (縦2倍，横2倍)にすると面積はどうなりますか。
- 学習課題の用紙で，横の長さは何cmになるか。平方根の考えを利用して，途中の過程も書こう。
- 様々な式があることをみんなで考えよう。

留意点

- ・ コピー機の表示など身近な利用体験がない生徒もいるので，丁寧に説明する。
- ・ 文字を利用するなど様々な説明方法があるので，他者が分かるようにまとめるよう指示する。
- ・ 今までの平方根の学習を振り返らせ，全体でまとめをする。
- ・ 面積が2倍の時だけでなく，3倍の時はどうなるかなど平方根の考えが広がることを理解させる。

重要事項

グループ学習で，自分の考えを相手に分かりやすく説明させるための言語活動を取り入れる。また，身近なところに平方根が利用されていることを感じさせる。

板書例

学習のめあて
コピー機の拡大縮小機能について考えよう。

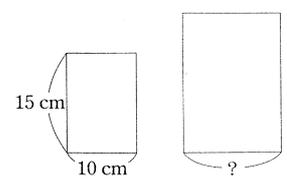
問題1
健二さん
『拡大する前の絵の面積は□cm²で、200%に拡大すると、面積が□cm²になるので、2倍ではなく□倍になるからだめだよ。』



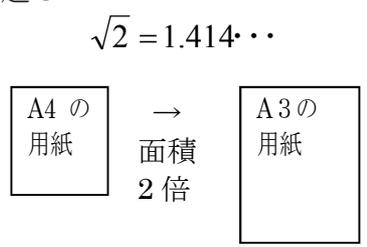
プロジェクターの
スクリーン

※ 黒板にマグネットスクリーンを貼り、パソコンの画面を映し出す。

問題2



問題3



スクリーンに映す画像①



スクリーンに映す画像②

問題2を解いた生徒の学習プリントをデジタルカメラで撮って、スクリーンに映し出す。

数人分を提示。

要点、ポイント等

- 問題1で縦、横を2倍にすると面積が4倍になることを確認することで、コピー機の拡大縮小機能の200%の拡大が、縦、横を2倍するというをまず理解させる。
- 面積を2倍にするために、自分なりに考え、まとめる活動を通して、平方根の考えが利用されていることに気付かせる。
- 一般的な方法では、縦、横をx倍すると考えると、横が10x cm、縦が15x cmとなることから、 $10x \times 15x = 300$ という2次方程式を作らせる。その際、式を作らずに、面積を2倍にするためには、 $\sqrt{2}$ 倍すればよいと考える生徒には、しっかりと筋道を立てて説明を書くよう指示を与える。
- グループ学習等で自分の考えを伝える活動を行うことで様々な考えを知り、生徒の学びを深めさせる。また、問題3で実際にコピーの機能で平方根が実生活に生かされていることを体感させることで、自分たちが学んでいる数学と実生活との関連を図る。

【小学校理科】授業改善に向けての参考例「植物の成長と結実」

「結実の条件について実験の方法を考え、実践する授業例」

ねらい

めしべに花粉をつけたものとつけないものの結実の仕方を調べ、花が実になるには、めしべの先に花粉がつく必要があることをとらえることができるようにする。

学習指導要領における内容

B 生命・地球 (1) 植物の発芽、成長、結実

エ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。

指導のポイント

- 条件を制御する必要性や調べる条件と同じにする条件に着目し、考えたことを交流して学び合いながら調べる方法をまとめていく時間を設定する。
- 前時に予想した花粉のはたらきについて想起させ、調べる方法を考える課題意識につなげる。
- 花粉をつけたものと花粉をつけないもので比べる場合の条件制御の必要性に気づかせて調べる方法の見通しをもたせる。

授業アイデア例

主な学習活動	指導上の留意点
1 課題をつかむ。 3枚のイチゴの写真を見て、実ができる条件を考える。	○ きれいにできたイチゴの実とそうでない実の写真を提示し、なぜそうした違いが出たのか疑問をもたせる。
2 学習問題を確かめる。 花粉と実のでき方の関係を探るにはどうしたらよいのだろうか。	
3 調べる方法を考える。 〈自力解決〉 → 〈学び合い〉	○ 条件制御について意識させ、確実に受粉させる場合と受粉させない場合をつくるためにはどうすればいいか考えさせる。
4 調べる方法についてまとめる。	○ おしべ、めしべ、受粉などのキーワードを意識させる。
5 話し合った方法に基づいて実験・観察を行う。	○ グループ毎にビニールテープなどで印を付けておく。
6 実験・観察結果を記録し、考察する。	○ 実験の結果を予想させ、ノートに書かせる。その際、予想の根拠となる理由も書くように指導する。
7 まとめをする。 受粉させためしべと受粉させないめしべをくらべるとよい。	

重点事項

花粉のはたらきに問題を見だし、検証実験をする際の条件制御について意識させる。

授業実践例

課題をつかむ

- 右のような3つのイチゴの写真を提示し、なぜ実のでき方に違いが出たのか疑問をもたせ、へちまのおばなとめばな、花粉などの学習とも関連づけさせながら、花粉のはたらきについて意識を向けさせる。
- 普段、イチゴとして食べている部分は花托といい茎が厚くなった部分で果実ではないが、小学生の発達段階を考慮して、ここでは実として取り扱う。



調べる方法を考える

- 自力解決・一人で実験の方法を考えノートに書く。(自分なりの方法を考える)
これまでの学習経験から、花粉をつけるものとつけないものを準備すればよいという条件制御について気付かせ、その上でどのような実験方法があるか自分なりの考えをもたせる。
 - ・ へちま園で観察したことを想起させ、調べる方法の見通しをもたせる。
 - ・ つまづいている児童には、おばなとめばなの写真を手がかりとし、花粉をつけさせない工夫を考えさせる。

<予想される考え>

おばなを切り取る。 おばなに袋をかぶせる。 めばなに袋をかぶせる。

- 学び合い・互いの考えを出し合い、よいと思う点や疑問点について話し合い、よりよい方法を追究する。
 - ・ 班から方法を出し合い、ワークシートを黒板に貼る。
 - ・ 黒板に貼られた様々な調べる方法を見て意見を交流し、調べる方法を明確にする。

<予想される意見>

- ・ おばなを切り取ったりおばなに袋をかぶせたりしても、どこかほかのところから虫が飛んできて、受粉させるかもしれない。
- ・ めばなに袋をかぶせるのはいい考えだと思うけど、花が開いてから袋をかぶせたら、遅いんじゃないかな。
- ・ 調べたいこと以外の条件をなるべく同じにするにはどうしたらいいんだろう。

板書例

花から実へ



学習問題

花粉と実のできかたの関係を調べるにはどうしたらよいらろうか。

予想

花粉をつけたものとつけないものをくらべる。

実験方法を考える



知らないうちに、虫が飛んできて受粉させてしまったら？



- ① めばながつぼみのうちに袋をかぶせる。
- ② ①を2つ用意して、花がさいたら一方だけ受粉させる。

【中学校理科】授業法改善に向けての参考例「化学変化と保存」
「話し合い活動を通して、反応する物質どうしの質量と体積の関係を見いださせる授業例」

ねらい

炭酸水素ナトリウムと塩酸を混ぜ、二酸化炭素が発生するときの質量変化についてのグラフを作成し、作成したグラフをもとにして炭酸水素ナトリウムが余るか、塩酸が余るかを判断することを通して、炭酸水素ナトリウムと塩酸が過不足なく反応する量が決まっていることを見いだすことができる。

学習指導要領における内容

〔第2学年〕 1分野 (4) 化学変化と原子・分子 ウ 化学変化と物質の質量
 (ア) 化学変化と質量の保存
 化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだすこと。

授業アイデア例

- 結果をまとめたグラフについて、炭酸水素ナトリウムが余っているか、塩酸が余っているか、どちらもちょうど余らないところはどこかを考察し、説明させる。
- 教科書の進め方では、質量保存の法則を扱ってから、銅やマグネシウムが酸素と化合する質量の割合を扱っている。本時の授業を質量保存の法則の最後で取り上げることによって、物質と物質が反応する量は決まっていることに気付かせる。そうすることによって、次に学習する銅やマグネシウムが酸素と化合する質量の比が一定であることを見いだすことにも、生徒の思考が途切れることなく学習を進めることが可能となる。



主な学習内容・活動

- 炭酸水素ナトリウムと塩酸を混ぜる前の全体の質量と、混ぜた後の全体の質量を比べる演示実験を見る。
- 炭酸水素ナトリウムの質量を変え、同様に質量を比べる演示実験を見る。
- 各自、予想し発表する。

塩酸に混ぜる炭酸水素ナトリウムの質量を変えていくと、発生する二酸化炭素の量はどこまで増えていくのだろうか。

- 炭酸水素ナトリウムの質量を1.0g～7.0gと変えたときの二酸化炭素の発生量を調べる実験を行う。
- 実験結果をもとにホワイトボードに書いたグラフ用紙を用いて、グループごとにグラフを作成する。
- グラフをもとにして、途中から二酸化炭素の量が増えなかった理由についてグループごとで話し合う。
- 全体でグループの意見を交流し、話し合う。

まとめ 炭酸水素ナトリウムと塩酸が過不足なく反応する量は決まっている。

主な発問・指示

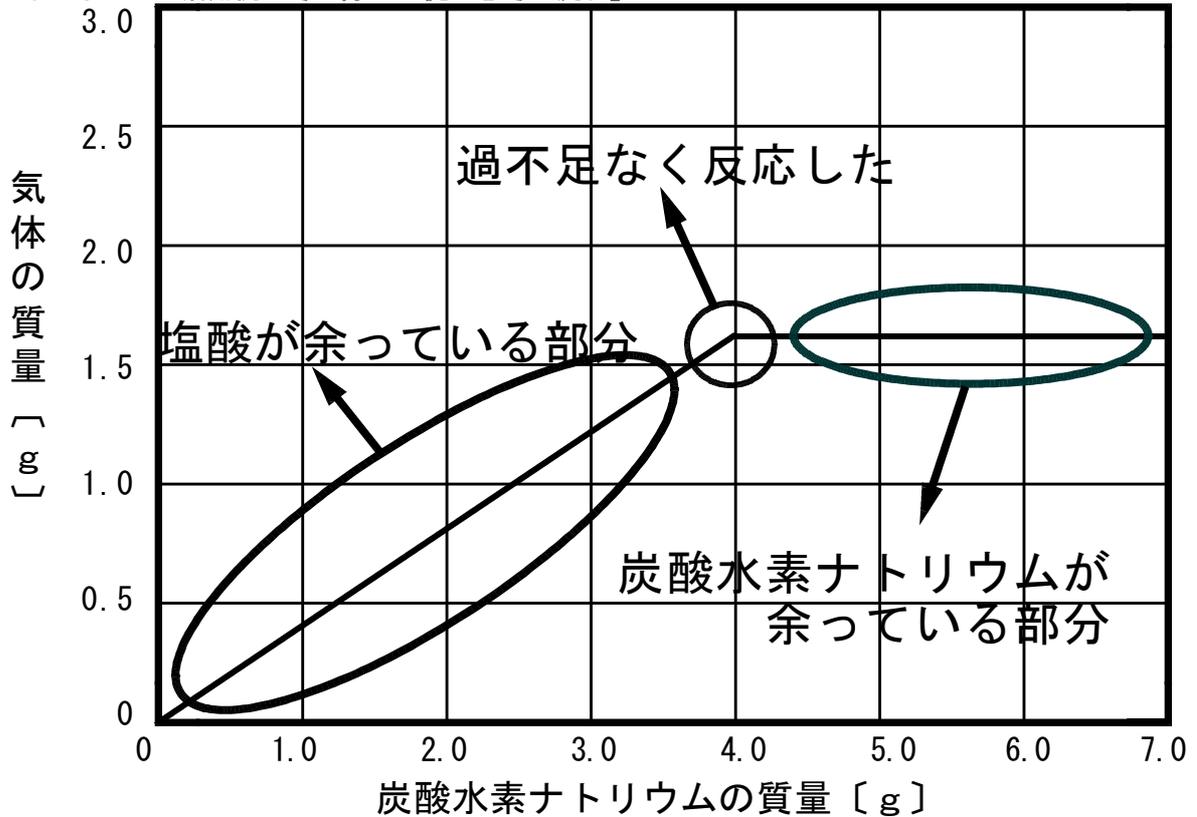
- 「混ぜる前の全体の質量と、混ぜた後の全体の質量を比べると、発生した二酸化炭素の質量は何gですか。」
- 「このときは、発生した二酸化炭素は何gですか。」
- 「炭酸水素ナトリウムの質量を3.0g、4.0gと増やしていくと、発生する二酸化炭素の質量はどうなると思いますか。」
- 「どうして、途中から二酸化炭素の量は増えなかったのですか。」
- 「反応後、炭酸水素ナトリウムが余っているのはどの部分ですか。」
- 「反応後、塩酸が余っているのはどの部分ですか。」
- 「反応後、炭酸水素ナトリウムも塩酸もすべて反応した部分はどこですか。」

留意点

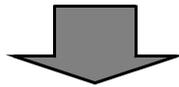
- 炭酸水素ナトリウムと塩酸を混ぜると、二酸化炭素が発生することを確認する。
- 導入の演示実験では1回目は炭酸水素ナトリウムを1.0g、2回目は2.0gとし、炭酸水素ナトリウムの質量が増えると、発生する二酸化炭素の質量が増えていくことを確認し、「3.0gだとどうなると思いますか」「4.0gだとどうなると思いますか」と尋ねながら、疑問をもたせ、課題化を図る。
- グループごとに炭酸水素ナトリウムの質量を指定し、二酸化炭素の発生量を調べる実験を1回にすると、考察に十分に時間をかけることが可能である。
- 考察の場面では、グループごとの話し合いの状況に応じて、作成したグラフを分析するための視点を順序立てて与える。

グループでの話し合いのときに、ホワイトボードに書いたグラフに、わかったことをどんどん記入させるようにする。

【ホワイトボードの活用例とその際の生徒の思考の流れ】



- 炭酸水素ナトリウムの質量が4.0 g より大きいとき
⇒塩酸はすべて使われ, 炭酸水素ナトリウムが余った
- 炭酸水素ナトリウムの質量が4.0 g より小さいとき
⇒炭酸水素ナトリウムはすべて使われ, 塩酸が余った
- 炭酸水素ナトリウムの質量が4.0 g のとき
⇒炭酸水素ナトリウムも塩酸も
すべてが反応に使われた (どちらも余らなかった)



<授業終末の子どもの意識>

塩酸20cm³に対して, 炭酸水素ナトリウムを4.0 g 加えると, どちらも余ることなく, すべて反応に使われた。物質と物質とが反応する量は決まっているようだ。他の化学変化でも, 調べてみたい。

【中学校英語】授業法改善に向けての参考例「書くこと」
「年間を通して学習してきた事項を活用し、総合的な表現力の向上を図る授業例」

ねらい

年間を通して学習してきた事項を活用し、総合的な表現力の向上を図る。

学習指導要領における内容

- 2エ(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。

指導のポイント

- 音声によるインプットを十分に行い、表現する内容についてのイメージをつかませる。
- 音声によるインタラクションや十分な音読練習を通して、表現に必要な技能等の習熟を図った上で、書く活動に取り組みさせる。「聞くこと」「話すこと」「読むこと」から「書くこと」につなげる活動の工夫

授業アイデア例

主な学習活動	指導上の留意点
<p>1 課題(TASK)をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">世界の国々について英語で紹介しよう。</div> <p>2 それぞれが持つカードの情報を基に、教師との英問英答を通して、必要な情報をまとめ、理解していく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国 A について、一部の情報が書かれたメモを受け取る。 ○ 教師との英問英答を通して、その他の情報を補う。 </div> <p>3 収集した情報を基に、モデル文を完成する。</p> <p>4 モデル文を理解し、音読練習に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に伝わりやすいように、強弱やイントネーション、文の区切りなどを意識しながら練習する。 <p>5 課題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアでの対話活動を通して、国 B についてのメモを完成させる。 ○ 完成したメモとモデル文を基に、国 B について紹介する英文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の意欲を高めるとともに、ゴールを明確にする活動 ○ 生徒との英問英答を通して、リスニングとスピーキングの力を伸ばしながら、モデル文の構築に必要な情報を収集させる活動 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国 A について、情報の一部が書かれたカードを配布する。(カードは列ごとに種類を分けて配布する。) ○ 教師は英問英答を通して、生徒がもつ情報を統合する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を統合し、英作文で表現させる活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 収集した情報を基に、モデル文を完成させる。 ○ モデル文を示し、課題解決に必要な技能を音声面から習得する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を活用し、フラッシュ教材として生徒に提示し、スムーズな習得を支援する。 ・ 音声による十分なインプットを経て、文字によるアウトプットへつなげる。 ○ 「話すこと」から「書くこと」への統合を図る活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国 B についてのメモを配布する。(ペア間でインフォメーションギャップが存在するようにしておく)。 ・ ペアでの対話活動を通してメモを完成させる。対話活動が難しい生徒がいる場合を想定し、ヒントカードを用意しておく。 ・ 作成した英文を回収する。 ・ 回収した英作文を点検し、必要に応じて個人指導を行う。(事後指導)

授業実践例

モデル文

I'm going to tell you about 【国名】. Many people love 【スポーツ名】.
They enjoy watching 【スポーツ名】 games.
The country has many beautiful places and buildings.
This is one of them. < show a picture >
This is a picture of 【建物名】. It is 【高さ】 meters tall.
It is 【年数】 years old. A lot of people visit to see it.
I want to go there someday. Thank you.

国A(Spain)の写真と説明文



- 国名：① スペイン (Spain)
- 人気のスポーツ：② サッカーと③ バスケットボール
- お祭りが盛り上がる。
- 写真の内容
 - ・④ サグラダファミリア (Sagrada Familia)
 - ・高さ：⑤ 約 170m
 - ・国分の城山公園と同じくらいの高さ
 - ・築およそ⑥ 133年

※ 生徒へ配布するカードでは、下線部分の情報が一つだけ記載されている。

※ 計6種類のカードを列ごとに配布する。

国B(Australia)の写真と説明文



- 国名：オーストラリア (Australia)
- 人気のスポーツ：サッカー、ラグビー、クリケット
- 広大な砂漠があり、珍しい動物もたくさんいる。
- 写真の内容
 - ・エアーズロック (Ayers Rock)
 - ・世界最大の石 ウルル (Uluru) と呼ばれる
 - ・高さ：約 350m
 - ・東京スカイツリーと同じくらい
 - ・全長：およそ 3,400m

※ 生徒へ配布するカードでは、下線部の情報が空欄になっているもの、波線部の情報が空欄になっているものを用意し、インフォメーションギャップが生じるようにしておく。

ヒントカード

国名は何？
What's the name of the country?

人気のスポーツは何？
What sport is popular?

名前は何？
What's this?

高さは？
How high is it?

年数は？
How old is it?

Ⅲ 児童生徒質問紙の結果

※ 1～2の各質問項目のグラフは、左から県、地区の結果を示している。

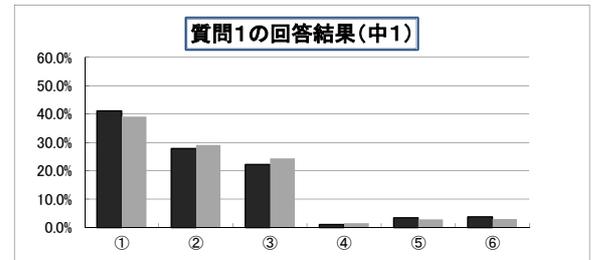
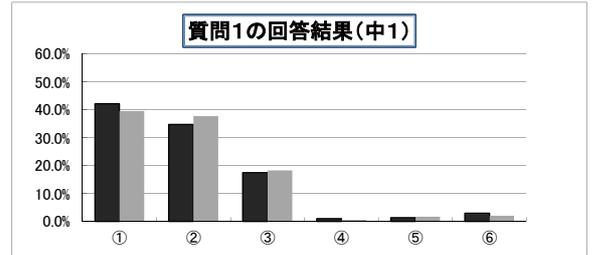
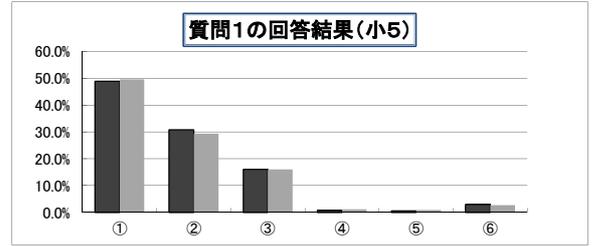
1 あなたは、家庭学習をどのようにしていますか。

- ① 学校の宿題だけをする。
- ② 学校の宿題がすんだら、自分で考えて他の学習をする。
- ③ 学校の宿題と塾の学習をする。
- ④ 学校の宿題はしないが、自分のやりたい学習をする。
- ⑤ 塾で学習するだけで、家庭学習はしないことが多い。
- ⑥ 学校以外では、ほとんど学習はしない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	48.9%	49.6%	42.1%	39.6%	41.1%	39.1%
②	30.8%	29.4%	34.7%	37.7%	27.9%	29.1%
③	16.0%	16.1%	17.5%	18.3%	22.2%	24.3%
④	0.8%	1.2%	1.1%	0.6%	1.1%	1.5%
⑤	0.6%	0.9%	1.4%	1.7%	3.5%	2.9%
⑥	2.9%	2.7%	3.0%	2.2%	3.8%	3.0%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

中学校において「学校の宿題と塾の学習をする」と回答した生徒の割合が、県平均よりも高くなっており、通塾生の割合が県平均よりも高いことが予想される。中学校において「学校の宿題が済んだら、自分で考えて他の学習をする」と回答した生徒の割合が、県平均よりも高い。また、「学校以外では、ほとんど学習しない」と回答した児童生徒は、全学年、県平均よりも低く、その差は、学年が上がることに大きくなっている。本地区の児童生徒は全体的に、家庭学習に真面目に取り組んでいることがうかがえる。



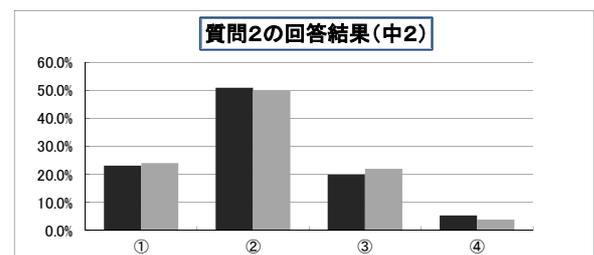
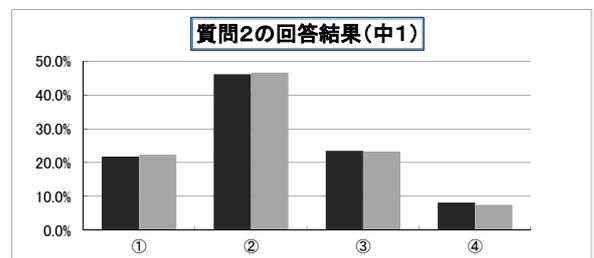
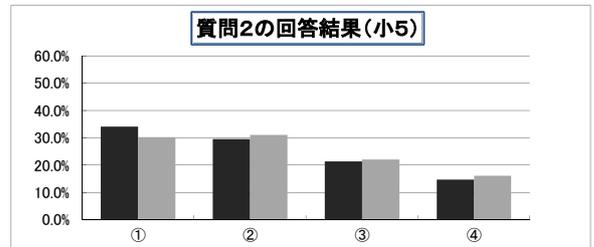
2 あなたが自分で考えてやる宿題（自学ノートなど）の内容は、どんなものが多いですか。

- ① ドリル等の問題をする。
- ② 教科書や問題集の練習問題する。
- ③ 教科書や参考書の文章や図、グラフなどを書き写す。
- ④ 自分でテーマを決めて調べ学習をする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	34.1%	30.3%	21.8%	22.4%	23.2%	24.1%
②	29.5%	31.0%	46.1%	46.7%	50.9%	49.9%
③	21.4%	22.1%	23.5%	23.3%	19.9%	22.1%
④	14.7%	16.1%	8.2%	7.5%	5.4%	3.9%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

小学校で、「ドリル等の問題をする」と回答した児童の割合は県よりも大幅に低く、逆に「教科書や問題集の練習問題をする」と回答した児童の割合が県よりも高い。中学校では、県・地区ともこの項目を回答した生徒の割合が最も高い。本地区の特徴としては、小5、中2において「教科書や参考書の文章や図、グラフなどを書き写す」と回答した児童生徒の割合が、県平均よりも大幅に高くなっていることが挙げられる。「自分でテーマを決めて調べ学習をする」と回答した児童生徒は、小学校では、県平均よりも高い割合であるが、中学校では、県平均を若干下回っている。学習内容との関連付けを明確にした家庭学習の推進が大切である。



※ 3の質問項目のグラフは、左から小5、中1、中2の結果を示している。

3 あなたは、家で学習しているときに、分からない問題があったら、どうしますか。

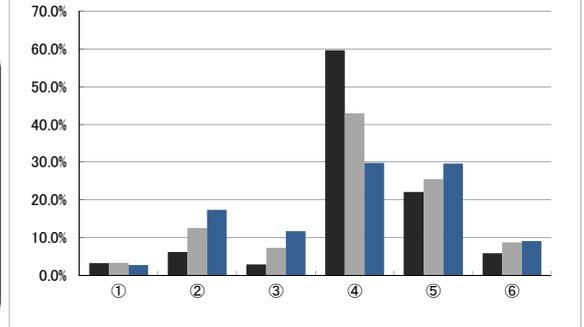
- ① 学校の先生に聞く。
- ② 友達に聞く。
- ③ 塾の先生や家庭教師の先生に聞く。
- ④ 家族や親戚に聞く。
- ⑤ 自分で調べる。
- ⑥ そのままにしておくことが多い。

本地区児童生徒の
学習状況の特徴

小学校では、「家族や親戚に聞く」と回答した児童の割合が圧倒的に高いが、この傾向は学年が上がるにつれて小さくなっている。逆に「自分で調べる」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるごとに高くなっている。また、「そのままにしておくことが多い」と回答した児童生徒の割合も、学年が上がるごとに高くなっている。教師による家庭学習の見届けなども必要である。

	小5	中1	中2
①	3.1%	3.2%	2.6%
②	6.1%	12.5%	17.3%
③	2.8%	7.2%	11.6%
④	59.7%	42.9%	29.8%
⑤	22.1%	25.4%	29.6%
⑥	5.8%	8.7%	9.0%

質問3の回答結果



※ 4～7の各質問項目のグラフは、左から県、地区の結果を示している。

4 あなたは、授業中にノートをとるときにどうしていますか。

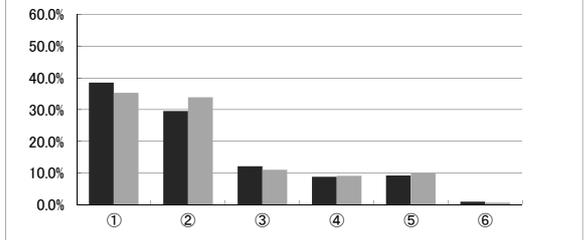
- ① 板書してあることを写す。
- ② 板書してあることを写すだけでなく、自分や友達の考えも書き込んでいる。
- ③ 板書してあることを写すだけでなく、先生の言葉も書き込んでいる。
- ④ 先生が指示したところだけ書いている。
- ⑤ 板書を参考に、自分なりにまとめ直しながらかいている。
- ⑥ ノートは、ほとんどとらない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	38.6%	35.3%	51.0%	48.9%	55.2%	55.2%
②	29.6%	33.9%	10.5%	11.8%	6.7%	6.7%
③	12.1%	11.0%	26.7%	26.3%	28.0%	25.9%
④	8.8%	9.1%	2.4%	2.4%	1.9%	2.4%
⑤	9.2%	9.8%	8.4%	9.8%	6.8%	8.8%
⑥	0.9%	0.6%	0.9%	0.7%	1.0%	0.9%

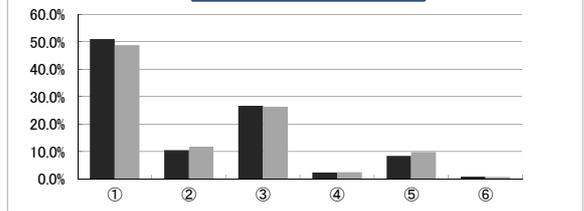
本地区児童生徒の学習状況の特徴

小5・中1では「板書してあることを写す」と回答した児童生徒の割合が、県平均よりも低く、逆に「板書してあることを写すだけでなく、自分や友達の考えも書き込んでいる」と回答した児童生徒の割合は、県平均よりも高くなっている。授業中におけるノートの取り方について工夫がなされてきていることがうかがえる。また、「板書を参考に、自分なりにまとめ直しながらかいている」と回答した児童生徒の割合は、県平均よりも高く、その差は学年が上がるごとに大きくなっている。児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の向上を図る授業が展開されつつあることがうかがえる。このことは、中2における平均通過率が、理科以外の全教科で県平均を上回った要因の一つとしても考えられる。

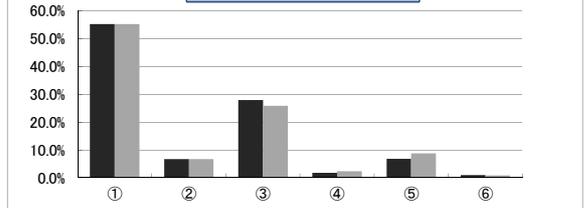
質問4の回答結果(小5)



質問4の回答結果(中1)



質問4の回答結果(中2)



5

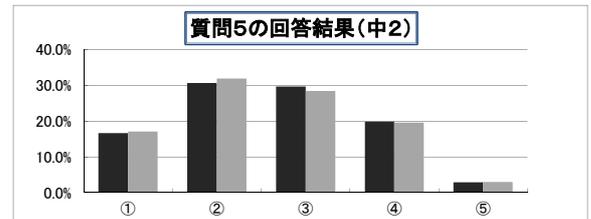
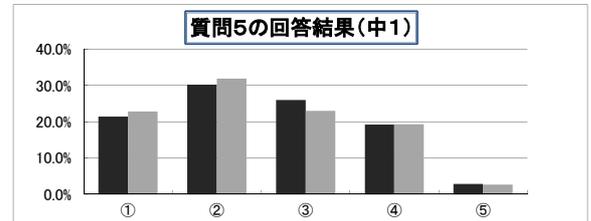
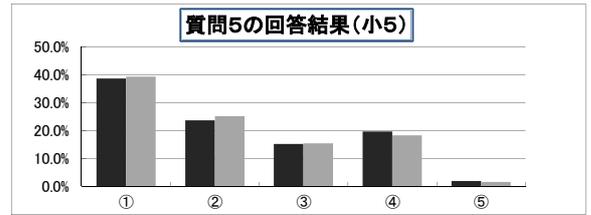
あなたが、初めてのことを学習するときの気持ちはどれですか。

- ① どんなことを学ぶのか楽しみだ。
- ② 自分が好きな学習のときは楽しみだ。
- ③ 特に何も思わない。
- ④ できるかどうか（わかるかどうか）、心配だ。
- ⑤ どうせ自分にはできない（わからない）と、あまり期待しない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	38.6%	39.3%	21.5%	22.9%	16.6%	17.1%
②	23.7%	25.1%	30.3%	32.0%	30.6%	31.9%
③	15.2%	15.4%	26.0%	23.1%	29.6%	28.4%
④	19.7%	18.2%	19.3%	19.3%	19.9%	19.6%
⑤	1.9%	1.6%	2.8%	2.7%	2.9%	2.9%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

「どんなことを学ぶのか楽しみだ」と回答した児童生徒の割合は、全学年で県平均より高い。しかし、その数値は、学年が上がるごとに低くなっており、このことは県全体と同じ傾向にある。本地区では「どうせ自分にはできない（わからない）と、あまり期待しない」と回答した児童生徒の割合は小5・中1で、県平均よりも低く、中2では県平均と同じである。児童生徒への学習に対する動機付け、意欲付け等は概ね図られていると思われる。

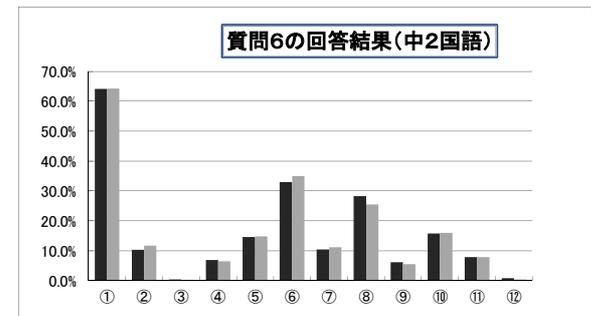
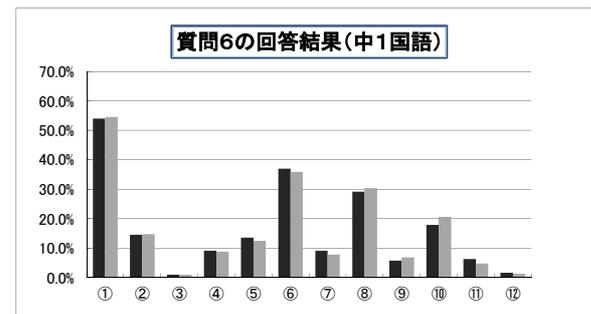
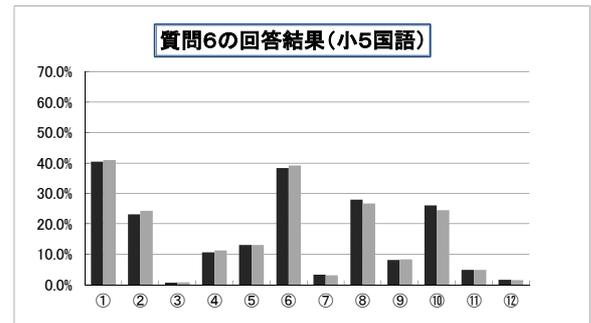


6

日ごろの授業では、どんな活動をする事が多いですか。（国語）

- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	40.5%	41.0%	54.0%	54.5%	64.1%	64.3%
②	23.1%	24.3%	14.5%	14.8%	10.3%	11.7%
③	0.7%	0.8%	1.0%	1.0%	0.4%	0.3%
④	10.7%	11.3%	9.2%	8.8%	6.9%	6.5%
⑤	13.0%	13.1%	13.6%	12.5%	14.6%	14.9%
⑥	38.4%	39.2%	37.0%	35.9%	33.0%	35.0%
⑦	3.3%	3.1%	9.1%	7.9%	10.5%	11.2%
⑧	27.9%	26.7%	29.2%	30.4%	28.3%	25.5%
⑨	8.1%	8.4%	17.9%	6.8%	6.2%	5.5%
⑩	26.1%	24.5%	17.9%	20.6%	15.8%	16.0%
⑪	4.9%	4.9%	6.4%	4.8%	7.8%	7.9%
⑫	1.7%	1.6%	1.6%	1.3%	0.8%	0.5%

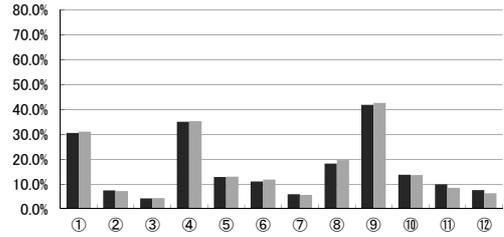


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（社会）

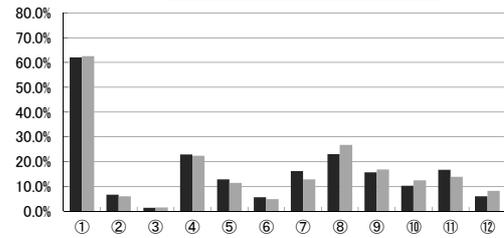
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	30.5%	31.1%	62.0%	62.6%	69.3%	69.8%
②	7.5%	7.1%	6.7%	6.0%	6.8%	5.0%
③	4.2%	4.4%	1.4%	1.4%	0.5%	0.2%
④	35.1%	35.3%	22.9%	22.4%	25.3%	24.2%
⑤	12.8%	13.0%	12.8%	11.4%	13.7%	15.1%
⑥	11.0%	11.8%	5.5%	4.9%	8.3%	9.9%
⑦	5.9%	5.6%	16.2%	12.8%	15.5%	11.5%
⑧	18.2%	19.6%	23.0%	26.7%	18.3%	21.4%
⑨	41.9%	42.6%	15.7%	16.8%	13.2%	17.1%
⑩	13.7%	13.6%	10.2%	12.4%	8.6%	11.8%
⑪	9.9%	8.4%	15.2%	13.8%	15.2%	10.8%
⑫	7.5%	6.3%	3.8%	8.1%	3.8%	2.1%

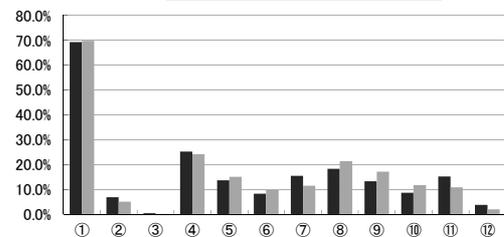
質問6の回答結果(小5社会)



質問6の回答結果(中1社会)



質問6の回答結果(中2社会)

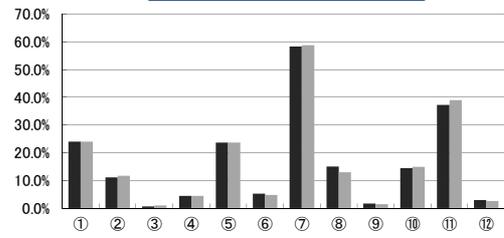


日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（算数・数学）

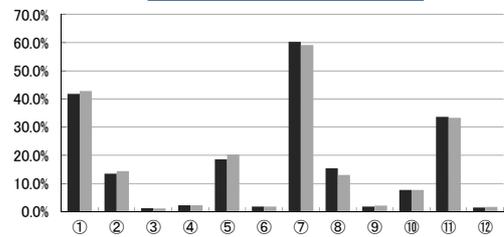
- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	24.0%	24.0%	41.9%	42.9%	41.1%	41.1%
②	11.1%	11.7%	13.5%	14.4%	15.4%	15.4%
③	0.6%	0.9%	1.2%	1.1%	0.4%	0.5%
④	4.4%	4.4%	2.2%	2.2%	2.1%	1.5%
⑤	23.6%	23.6%	18.6%	20.3%	18.3%	17.5%
⑥	5.2%	4.8%	1.8%	1.8%	1.6%	1.7%
⑦	58.3%	58.8%	60.3%	59.2%	58.1%	56.8%
⑧	15.0%	12.9%	15.4%	13.0%	18.7%	22.8%
⑨	1.6%	1.4%	1.8%	2.1%	1.9%	1.5%
⑩	14.5%	14.8%	7.6%	7.7%	7.6%	7.6%
⑪	37.2%	39.0%	33.7%	33.3%	33.0%	31.8%
⑫	2.9%	2.6%	1.4%	1.6%	0.9%	1.4%

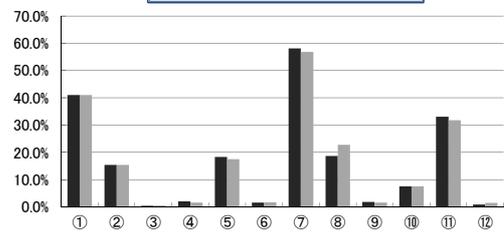
質問6の回答結果(小5数学)



質問6の回答結果(中1数学)



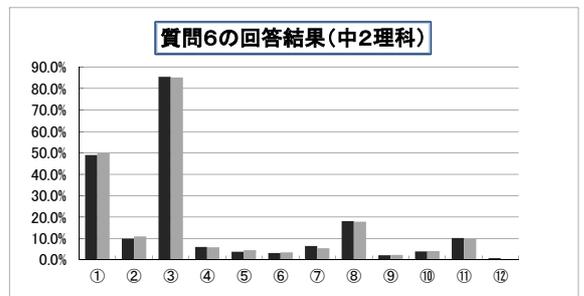
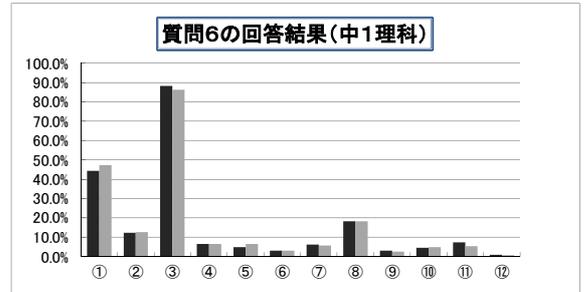
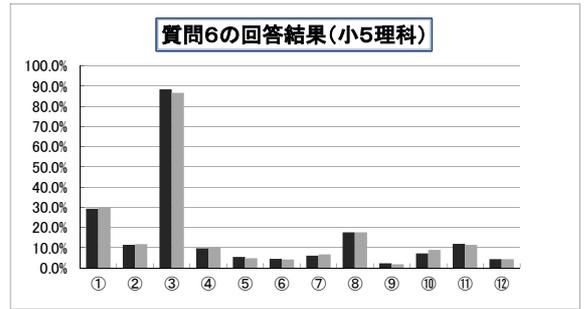
質問6の回答結果(中2数学)



日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（理科）

- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

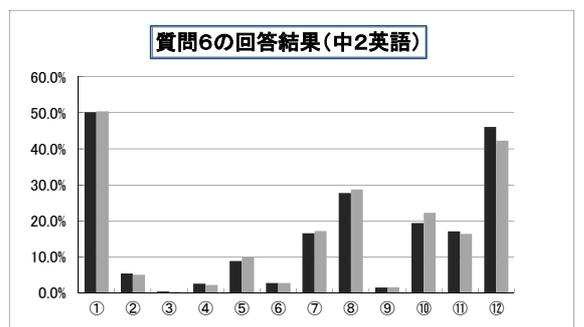
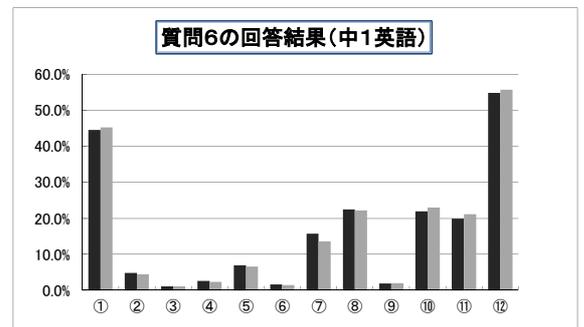
	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	29.3%	30.0%	44.3%	47.3%	49.0%	49.9%
②	11.4%	11.8%	12.3%	12.7%	9.9%	10.9%
③	88.5%	86.7%	88.2%	86.2%	85.4%	85.2%
④	9.7%	10.3%	6.5%	6.5%	6.0%	5.9%
⑤	5.5%	4.8%	4.8%	6.5%	3.8%	4.5%
⑥	4.4%	4.1%	3.0%	3.1%	3.1%	3.5%
⑦	6.0%	6.6%	6.2%	5.7%	6.5%	5.4%
⑧	17.6%	17.5%	18.2%	18.2%	18.1%	17.8%
⑨	2.2%	1.8%	3.1%	2.5%	2.2%	2.2%
⑩	7.2%	8.8%	4.5%	4.8%	3.9%	4.1%
⑪	11.9%	11.4%	7.3%	5.4%	10.2%	9.9%
⑫	4.2%	4.3%	0.9%	0.8%	0.8%	0.1%



日ごろの授業では、どんな活動をする人が多いですか。（英語）

- ① 先生の説明を聞く。
- ② 学習の手順や方法を考える。
- ③ 実験や観察、見学など、体験をする。
- ④ 課題について、調べ学習をする。
- ⑤ 自分でじっくり考える。
- ⑥ 自分の考えを文章にまとめる。
- ⑦ 問題をといて、答え合わせをする。
- ⑧ ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする。
- ⑨ 自分の考えや資料をもとに、話し合う。
- ⑩ お互いに発表したり、説明したりする。
- ⑪ プリントや問題集でたくさん練習をする。
- ⑫ 学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする。

	中1		中2	
	県	地区	県	地区
①	44.6%	45.3%	50.1%	50.4%
②	4.8%	4.4%	5.4%	5.0%
③	1.1%	1.1%	0.4%	0.2%
④	2.7%	2.3%	2.6%	2.1%
⑤	6.9%	6.6%	8.8%	9.8%
⑥	1.6%	1.5%	2.7%	2.7%
⑦	15.8%	13.6%	16.5%	17.2%
⑧	22.5%	22.2%	27.7%	28.7%
⑨	1.9%	2.0%	1.4%	1.5%
⑩	21.9%	23.0%	19.4%	22.2%
⑪	19.9%	21.1%	17.1%	16.4%
⑫	54.8%	55.7%	46.1%	42.3%



各教科の授業における本地区児童生徒の学習状況の特徴

国語

小学校では「先生の説明を聞く」と「自分の考えを文章にまとめる」と回答した児童の割合は、ほぼ同程度であるが、中学校では「先生の説明を聞く」と回答した生徒の割合が圧倒的に高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。しかし、本地区では、「ペアやグループで、考えを出し合ったり教えあったりする」と回答した児童生徒が小5・中2で県平均よりも低くなっている。児童生徒が自分の考えや意見を発表したり、意見交換したりする機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に意識的に取り組むことが必要である。また、中1では、「プリントや問題集でたくさん練習する」と回答した生徒の割合が県平均よりも大幅に低くなっている。学習事項の定着のために、多くの問題に取り組ませることも必要である。

社会

小学校では「自分の考えや資料をもとに話し合う」と回答した児童の割合が最も高いが、中学校では「先生の説明を聞く」と回答した生徒の割合が圧倒的に高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。しかし、本地区では、「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と「自分の考えや資料をもとに話し合う」回答した児童生徒が、全学年において県平均よりも高く、特に中学校においてその差が大きくなっている。自他の考えや意見を交流する機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に意識的に取り組んでいることがうかがえる。一方、「プリントや問題集でたくさん練習する」と回答した児童生徒の割合は、県平均を大きく下回っている。学習事項の定着を図るためには、多くの問題に取り組ませることも重要である。授業の中に効果的に位置付けることが必要である。

算数・数学

全学年で「問題を解いて、答え合わせをする」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。本地区の特徴としては、中2で「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と回答した生徒の割合が県平均よりもかなり高く、小5で、「プリントや問題集でたくさん練習する」と回答した児童の割合が県平均より高いことが挙げられる。自他の考えや意見を交流する機会を設定するなど、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践するとともに、多くの問題に取り組ませるなど、習熟を図る授業にも取り組んでいることがうかがえる。今後は、ペア活動やグループ活動の質的向上を図り、身に付けた知識・技能を活用する力を更に高める必要がある。

理科

全学年で「実験や観察、見学など、体験をする」と回答した児童生徒の割合が最も高く、体験的な学習活動が行われていることがうかがえる。この傾向は県も本地区も同様であるが、その割合は全学年で県平均よりも低くなっている。また、小5、中1では、「自分の考えや資料をもとに話し合う」と回答した児童生徒が県平均より低く、小5、中2では「ペアやグループで、考えを出し合ったり教え合ったりする」と回答した児童生徒の割合が低くなっている。実験等の体験的な学習活動の質的向上とともに、自他の考えや意見を交流する機会の設定等による言語活動の更なる充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業実践に取り組むことが重要である。

英語

中1では「学習ゲームをしたり、学習クイズをしたりする」と回答した生徒の割合が最も高く、中2では「先生の説明を聞く」の割合が最も高くなっている。この傾向は、県も本地区も同様である。中1においては、小学校外国語活動で培われたコミュニケーション能力の素地を生かす指導が行われているものと思われる。本地区の特徴としては、中1・中2ともに「お互いに発表したり、説明したりする」と回答した生徒の割合が、県平均よりも高くなっていることが挙げられる。コミュニケーション活動の工夫等、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す授業が実践されていることがうかがえる。一方、中2で「プリントや問題集でたくさん練習する」と回答した生徒の割合が県よりも低い状況もある。多くの問題に取り組ませることで習熟を図る授業に取り組むことも重要である。

7

あなたは、次のような授業で学んでいて、どのように感じますか。

(1) 先生がくわしく説明してくれる授業

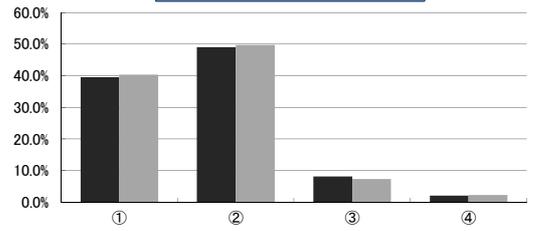
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	39.6%	40.3%	32.6%	32.2%	31.1%	30.5%
②	49.1%	49.7%	53.5%	55.0%	54.7%	56.1%
③	8.1%	7.3%	11.3%	10.2%	11.5%	11.1%
④	2.1%	2.2%	2.5%	2.5%	2.2%	2.1%

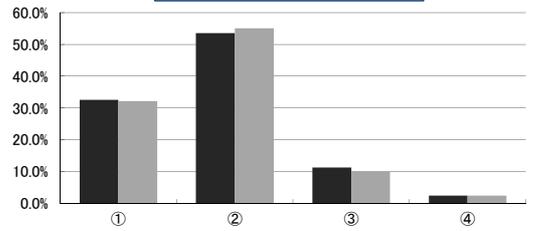
本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、小5において県平均よりも若干高く、中1では同程度、中2では若干低くなっている。

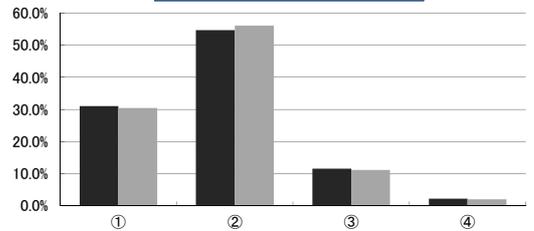
質問7(1)の回答結果(小5)



質問7(1)の回答結果(中1)



質問7(1)の回答結果(中2)



(2) 自分たちで考えたり話し合ったりする授業

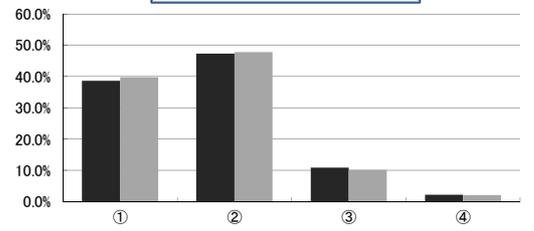
- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	38.6%	39.7%	33.7%	34.8%	32.3%	34.2%
②	47.3%	47.8%	49.8%	49.6%	51.0%	50.0%
③	10.9%	10.1%	13.6%	13.1%	13.4%	12.6%
④	2.2%	2.1%	2.9%	2.3%	2.9%	3.2%

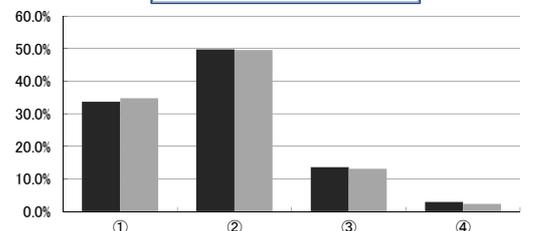
本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は全学年において県平均よりも高い。「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」を合わせた割合は、全学年、県平均よりも高くなっている。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、中2で県平均よりも高くなっている。

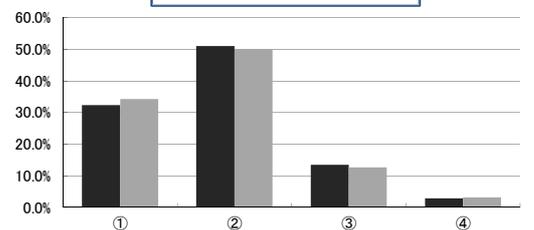
質問7(2)の回答結果(小5)



質問7(2)の回答結果(中1)



質問7(2)の回答結果(中2)



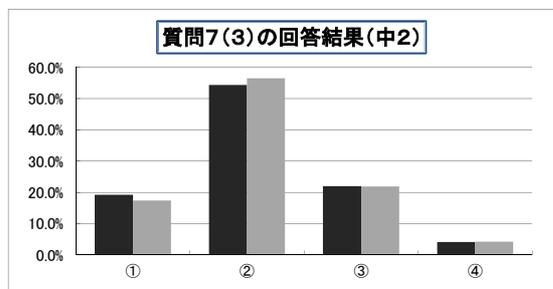
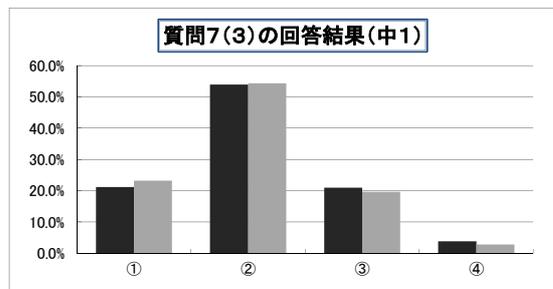
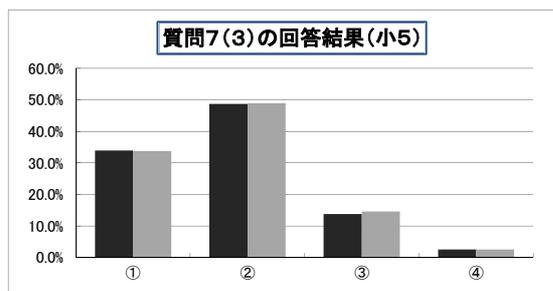
(3) 自分たちが発表したり、友達の発表を聞いたりすることが多い授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	34.0%	33.8%	21.2%	23.2%	19.2%	17.4%
②	48.8%	48.9%	53.9%	54.3%	54.3%	56.4%
③	13.7%	14.5%	21.0%	19.6%	22.0%	21.9%
④	2.5%	2.6%	3.8%	2.8%	4.1%	4.2%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

全学年において「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、この傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は全学年において県平均よりも高い。「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」を合わせた割合は、小5が同程度、中1・中2では、県平均よりも高い。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、中1が県平均より若干低い、小5・中2は県平均と同程度である。



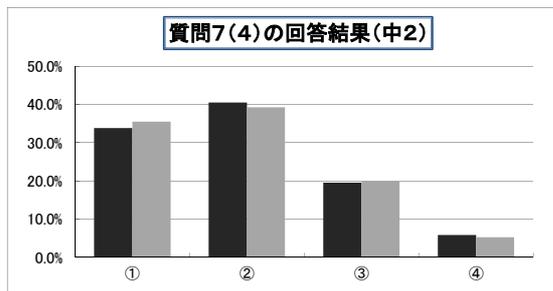
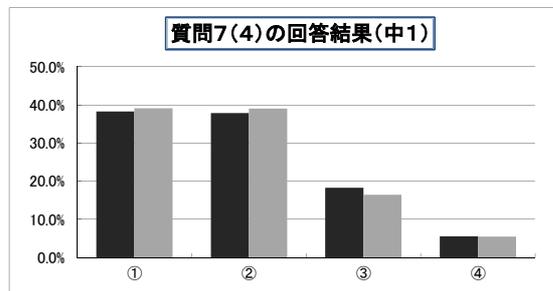
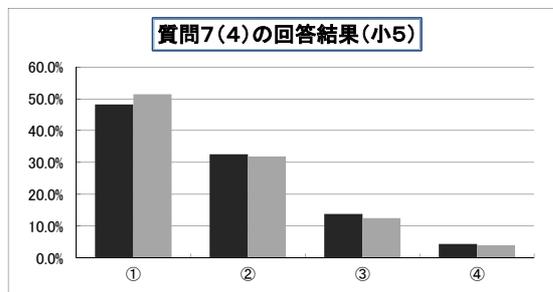
(4) 難しい課題に挑戦する授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	48.2%	51.4%	38.2%	39.1%	33.8%	35.5%
②	32.6%	31.9%	37.9%	39.0%	40.5%	39.3%
③	13.8%	12.5%	18.2%	16.4%	19.6%	20.0%
④	4.4%	3.9%	5.6%	5.5%	5.8%	5.2%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

小学校においては「とてもやりがいを感じる」と回答した児童の割合が最も高く、中1においては「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合がほぼ同程度である。中2においては「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合が最も高い。これらの傾向は県も本地区も同様であるが、「やりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合は全学年において県平均よりも高くなっており、逆に「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は全学年において、県平均よりも低くなっている。



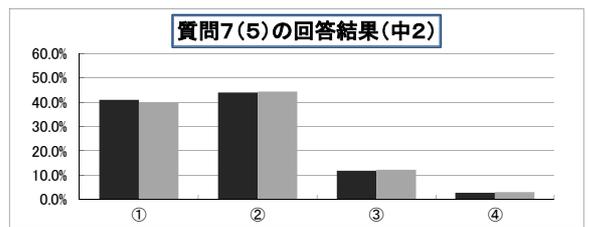
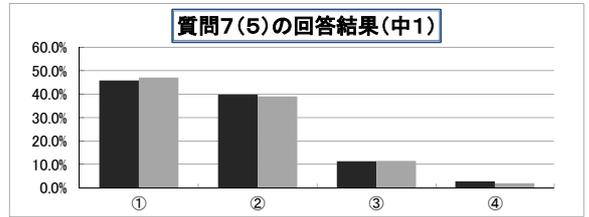
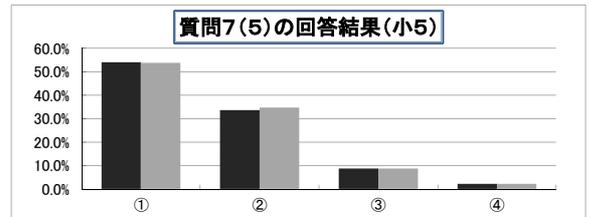
(5) 自分たちで調べて、課題を解決する授業

- ① とてもやりがいを感じる。
- ② やりがいを感じる。
- ③ あまりやりがいを感じない。
- ④ やりがいを感じない。

	小5		中1		中2	
	県	地区	県	地区	県	地区
①	54.1%	53.9%	45.8%	47.0%	41.0%	39.8%
②	33.7%	34.8%	39.8%	39.0%	44.0%	44.3%
③	8.8%	8.8%	11.4%	11.5%	11.8%	12.2%
④	2.3%	2.2%	2.7%	2.0%	2.7%	3.0%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

小5と中1においては「とてもやりがいを感じる」と回答した児童生徒の割合が最も高く、中2においては「やりがいを感じる」と回答した生徒の割合が最も高い。これらの傾向は県も本地区も同様である。「とてもやりがいを感じる」と「やりがいを感じる」を合わせた割合は、中2で県平均よりも若干低くなっている。「やりがいを感じない」と回答した児童生徒の割合は、小5・中1では県平均よりも低いが、中2では、県平均よりも高くなっている。



※ 8～9の各質問項目のグラフは、左から小5、中1、中2の結果を示している。

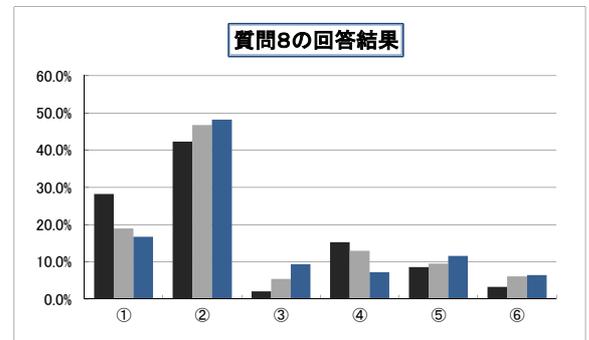
8 あなたは、授業中分からないことがあったら、どうしますか。

- ① 学校の先生に聞く。
- ② 友達に聞く。
- ③ 後で、塾の先生や家庭教師の先生に聞く。
- ④ 後で、家族や親戚に聞く。
- ⑤ 自分で調べる。
- ⑥ そのままにしておく。

本地区児童生徒の学習状況の特徴

	小5	中1	中2
①	28.3%	19.0%	16.7%
②	42.3%	46.7%	48.2%
③	2.1%	5.4%	9.3%
④	15.3%	13.0%	7.2%
⑤	8.6%	9.6%	11.6%
⑥	3.3%	6.2%	6.5%

「学校の先生に聞く」と回答した児童生徒の割合は小学校と比較すると中学校で大幅に低くなっている。全学年において「友達に聞く」と回答した割合が最も高いが、学年が上がるごとにその傾向が強くなる。また、「そのままにしておく」と回答した割合も、学年が上がるごとに高くなっている。個別指導の充実が必要である。



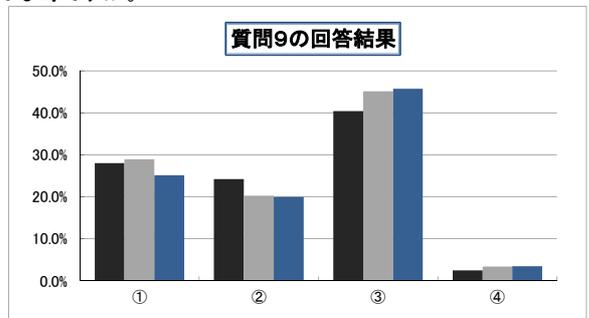
9 学習する中で楽しいと感じたり、やりがいを感じたりする時は、どんな時ですか。

- ① 教科の学習（国語、算数など）
- ② 道徳や総合的な学習の時間
- ③ 特別活動（学級活動、学校行事など）
- ④ 楽しさや、やりがいを感じる時はない。

	小5	中1	中2
①	28.0%	28.9%	25.1%
②	24.2%	20.2%	19.9%
③	40.4%	45.2%	45.7%
④	2.5%	3.4%	3.5%

本地区児童生徒の学習状況の特徴

「楽しさや、やりがいを感じる時はない」と回答した割合は、学年が上がるごとに高くなっている。個に応じた指導、個を生かす指導に努め、児童生徒の興味・関心・意欲を高めながら、「学ぶ喜びや楽しさ」を味わえるような授業を構築する必要がある。



始良・伊佐地区教育行政の基本理念

「緑の教育」

緑の自然のごとく あしたをひらく豊かな心

緑の若葉のごとく あしたを創る確かな学力

緑の大樹のごとく あしたを担うたくましい身体